

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-本 01	安全管理部 安全対策第一課	2	途上国の政治や治安情勢の把握方法とJICA安全対策の基本について学び、日本人の安全な海外滞在に必要な取り組みを考える
2401-本 02	広報部 地球ひろば推進課	2	国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート
2401-本 03	人事部 開発協力人材室	1	JICAの国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」の若年層へのアプローチ
2401-本 04	人事部 健康管理室	1	国際協力のための健康管理データ活用
2401-本 05	管理部 債権管理第二課	2	債権管理活動のサポート（途上国債務問題、債権回収事務手続き改善、JICA内PR素材作成）
2401-本 06	企画部 総合企画課	1~3	JICAにおけるイノベーション推進の企画・運営、SDGsに関連する情報収集・分析・発信（大阪・関西万博関連活動を含む）
2401-本 07	東南アジア・大洋州部 東南アジア第三課	3	日越大学の新しいキャンパス整備・学園都市構想の計画づくりのための日越大学生の生活環境調査（Webアンケート、インタビュー）
2401-本 08	中南米部 南米課	2~4	南米地域における国別協力量針策定、民間連携、長期研修員とのネットワーキングに係る業務補助活動
2401-本 09	中南米部 中米・カリブ課	2	中米・カリブ地域における協力の整理と今後の方向性の検討、中米・カリブ地域のJICA取り組み促進に向けたセクター情報の整理
2401-本 10	中東・欧州部 ウクライナ支援室	2	日本国内のウクライナ避難民支援とウクライナ復旧・復興支援をつなぐ取り組みの形成・実施
2401-本 11	民間連携事業部 計画・連携企画課	1	JICA民間連携事業部での就業体験：「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報活動、他機関との連携活動
2401-本 12	ガバナンス・平和構築部 STI・DX室	1	デジタル分野に関するJICA事業の活動補助及び研修事業への参加
2401-本 13	人間開発部 基礎教育グループ基礎教育第一チーム	1	基礎教育分野における新しい課題への対応及び広報強化支援
2401-本 14	人間開発部 高等教育・社会保障グループ 高等・技術教育チーム	1~2	高等・技術教育分野における国際動向調査・大学間ネットワーク強化
2401-本 15	人間開発部 保健第一グループグローバルヘルスチーム	2	保健システムリサーチグローバルシンポジウム（HSR2024）運営補助
2401-本 16	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第二チーム	1	水産分野における国際協力に関する情報収集と支援活動
2401-本 17	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第二チーム	1	畜産・家畜衛生分野における国際協力に関する情報収集と支援活動
2401-本 18	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第三チーム	1	小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-本 19	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第四チーム	1	農業・農村開発協力における気候変動対策の推進に向けた国際社会の潮流等の情報収集及び分析
2401-本 20	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第四チーム	1	世界各国における農業保険制度の情報取りまとめおよび分析
2401-本 21	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第四チーム	1	アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）に関連する情報取りまとめ及び分析
2401-本 22	経済開発部 民間セクター開発グループ第一チーム	1	中央アジアにおける観光プロモーション支援業務補佐活動
2401-本 23	経済開発部 民間セクター開発グループ第一チーム	1	中小・SDGsビジネス支援事業活用企業による日本人材開発センター（通称：日本センター）の活用状況調査
2401-本 24	社会基盤部 都市・地域開発グループ	3	開発途上国への技術協力と日本の都市・地域開発分野の経験
2401-本 25	社会基盤部 運輸交通グループ第一チーム	1	道路交通安全に係るJICAと国際機関及び国内関係機関との連携に係る調査研究
2401-本 26	社会基盤部 資源・エネルギーグループ第一チーム	1	カーボンニュートラルに向けたエネルギートランジションあるいは持続的な鉱物資源開発に関する調査研究
2401-本 27	国内事業部 外国人材受入支援室	2	移住と開発、外国人材受入、多文化共生に関連する活動推進／情報取りまとめ活動
2401-本 28	調達・派遣業務部 調達推進第二課	1	JICAのロジスティックスについて学んで、国際協力人材としての競争力を高めよう！国際協力事業に将来携わりたい人必見。
2401-本 29	評価部 評価企画課	若干名	インパクト評価（JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集の作成・更新）
2401-本 30	評価部 事業評価第二課	1	事業評価（教訓活用状況の整理）
2401-本 31	青年海外協力隊事務局 国内グループ参加促進課	6	JICA海外協力隊事業における広報活動の強化

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 国内機関ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-国 01	筑波センター 総務課	2~4	国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために
2401-国 02	筑波センター 研修業務課	3~4	課題別研修「稲作技術向上（普及員）（A）」コースの活動補佐
2401-国 03	筑波センター 研修業務課	2~3	課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐
2401-国 04	東京センター 総務課	2~3	地域交流イベントの企画、実施
2401-国 05	東京センター 長期研修課	1	長期研修員の受入活動を補佐し、研修員の所属する研究室を取材、HP、Facebook等で発信する
2401-国 06	横浜センター 総務課	2	海外移住資料館の教育プログラムおよび広報・イベント活動補佐
2401-国 07	横浜センター 研修業務課	2	JICA横浜 研修運営業務 ～対外発信と改善提案～
2401-国 08	横浜センター 市民課	5	民間連携事業に係る情報発信・川崎国際環境技術展におけるJICA留学生と出展企業の交流推進
2401-国 09	北陸センター 業務課	2~3	北陸3県におけるJICA北陸との連携先調査
2401-国 10	中部センター 研修業務課	1	長期研修員（JICA留学生）受入れ支援を中心とした業務補助
2401-国 11	関西センター	8	関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）
2401-国 12	中国センター 市民参加協力課	2	外国人材受入・多文化共生への関わり方の提案
2401-国 13	九州センター 市民参加協力課	1	JICA九州センター広報
2401-国 14	沖縄センター 研修業務課	1	沖縄における廃棄物管理研修の成果は研修参加国においてどのように活用されるか
2401-国 15	沖縄センター 研修業務課	1	研修への参加を通じて学ぶ中南米地域の日系社会及び沖縄の連携強化と日系社会の活性化
2401-国 16	沖縄センター 研修業務課	1	島嶼地域の地理的・自然条件下にある沖縄における道路維持管理の技術は島嶼国・沿岸国においてどのように活用されるか

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 在外ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-在 01	マレーシア事務所	2	応募者提案による（自由研究テーマの調査・分析または広報戦略の検討・広報活動の実施）
2401-在 02	バヌアツ支所	1	JICAバヌアツ支所における各種事業の実施支援
2401-在 03	キルギス事務所	1	JICAキルギス共和国事務所の広報活動の強化
2401-在 04	ドミニカ共和国事務所	1	新規事業「Artist in Project」及び「環境KIDS Expert」に係る実施支援
2401-在 05	ドミニカ共和国事務所	1	ドミニカ共和国における海外協力隊事業に関する対外発信の強化
2401-在 06	メキシコ事務所	1	JICAメキシコ事務所における対外発信・広報活動の強化及び総務・企画活動の補助
2401-在 07	ニカラグア事務所	1	首都マナグア湖の水質改善のためJICAニカラグア事務所が取り組む環境教育、環境保護活動及びこれら活動に関連する広報活動。
2401-在 08	ボリビア事務所	1	JICAボリビア事務所における各種事業の実施支援
2401-在 09	エクアドル事務所	1	エクアドル事務所の広報・研修活動
2401-在 10	ペルー事務所	1	ペルー文化遺産の保全・活用を通じた持続可能な観光開発（サブタスク：北部地域観光開発と関連情報の整備と発信）
2401-在 11	タンザニア事務所	1	「スポーツと開発」の可能性を探る～「レディース・ファースト」の実施支援と今後の展望を見据えて～
2401-在 12	カメルーン事務所	2	「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」（農業）における事業運営補佐
2401-在 13	ルワンダ事務所	1	JICALルワンダの広報/ブランディング戦略の策定・デザイン・実行、および事務所オペレーション効率化支援
2401-在 14	ヨルダン事務所	1	社会的脆弱層に配慮したインフラ開発
2401-在 15	エジプト事務所	1	エジプト事務所における総務活動・研修関連活動

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 開発コンサルティング企業ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-開コ 01	(株)アルメック	最大2名	フィリピン国公共交通指向型開発(TOD)能力強化プロジェクト
2401-開コ 02	(株)三祐コンサルタンツ	1	マリ国地方行政能力強化アドバイザー業務(技術協力個別案件)
2401-開コ 03	(株)三祐コンサルタンツ	1	ケニア国小規模農民組織強化・アグリビジネス振興プロジェクト(第Ⅲ期)
2401-開コ 04	(株)三祐コンサルタンツ	1	アフリカ地域IFNAにおけるIGSA展開促進のための情報収集・確認調査(QCBS)
2401-開コ 05	(株)パデコ	1	エジプト国特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト
2401-開コ 06	(株)パデコ	1	ラオス国初等教育における算数指導力強化プロジェクト(QCBS)
2401-開コ 07	八千代エンジニアリング(株)	1	ウガンダ国首都圏送変電網改修事業(円借款)
2401-開コ 08	八千代エンジニアリング(株)	1	ネパール国ビラトナガル水道改善計画
2401-開コ 09	八千代エンジニアリング(株)	1	インドネシア国ジャカルタ首都圏総合洪水対策事業準備調査

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-本 01	安全管理部 安全対策第一課	2	途上国の政治や治安情勢の把握方法とJICA安全対策の基本について学び、日本人の安全な海外滞在に必要な取り組みを考える
2401-本 02	広報部 地球ひろば推進課	2	国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート
2401-本 03	人事部 開発協力人材室	1	JICAの国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」の若年層へのアプローチ
2401-本 04	人事部 健康管理室	1	国際協力のための健康管理データ活用
2401-本 05	管理部 債権管理第二課	2	債権管理活動のサポート（途上国債務問題、債権回収事務手続き改善、JICA内PR素材作成）
2401-本 06	企画部 総合企画課	1~3	JICAにおけるイノベーション推進の企画・運営、SDGsに関連する情報収集・分析・発信（大阪・関西万博関連活動を含む）
2401-本 07	東南アジア・大洋州部 東南アジア第三課	3	日越大学の新しいキャンパス整備・学園都市構想の計画づくりのための日越大学生の生活環境調査（Webアンケート、インタビュー）
2401-本 08	中南米部 南米課	2~4	南米地域における国別協力量針策定、民間連携、長期研修員とのネットワーキングに係る業務補助活動
2401-本 09	中南米部 中米・カリブ課	2	中米・カリブ地域における協力の整理と今後の方向性の検討、中米・カリブ地域のJICA取り組み促進に向けたセクター情報の整理
2401-本 10	中東・欧州部 ウクライナ支援室	2	日本国内のウクライナ避難民支援とウクライナ復旧・復興支援をつなぐ取り組みの形成・実施
2401-本 11	民間連携事業部 計画・連携企画課	1	JICA民間連携事業部での就業体験：「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報活動、他機関との連携活動
2401-本 12	ガバナンス・平和構築部 STI・DX室	1	デジタル分野に関するJICA事業の活動補助及び研修事業への参加
2401-本 13	人間開発部 基礎教育グループ基礎教育第一チーム	1	基礎教育分野における新しい課題への対応及び広報強化支援
2401-本 14	人間開発部 高等教育・社会保障グループ 高等・技術教育チーム	1~2	高等・技術教育分野における国際動向調査・大学間ネットワーク強化
2401-本 15	人間開発部 保健第一グループグローバルヘルスチーム	2	保健システムリサーチグローバルシンポジウム（HSR2024）運営補助
2401-本 16	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第二チーム	1	水産分野における国際協力に関する情報収集と支援活動
2401-本 17	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第二チーム	1	畜産・家畜衛生分野における国際協力に関する情報収集と支援活動
2401-本 18	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第三チーム	1	小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-本 19	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第四チーム	1	農業・農村開発協力における気候変動対策の推進に向けた国際社会の潮流等の情報収集及び分析
2401-本 20	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第四チーム	1	世界各国における農業保険制度の情報取りまとめおよび分析
2401-本 21	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第四チーム	1	アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）に関連する情報取りまとめ及び分析
2401-本 22	経済開発部 民間セクター開発グループ第一チーム	1	中央アジアにおける観光プロモーション支援業務補佐活動
2401-本 23	経済開発部 民間セクター開発グループ第一チーム	1	中小・SDGsビジネス支援事業活用企業による日本人材開発センター（通称：日本センター）の活用状況調査
2401-本 24	社会基盤部 都市・地域開発グループ	3	開発途上国への技術協力と日本の都市・地域開発分野の経験
2401-本 25	社会基盤部 運輸交通グループ第一チーム	1	道路交通安全に係るJICAと国際機関及び国内関係機関との連携に係る調査研究
2401-本 26	社会基盤部 資源・エネルギーグループ第一チーム	1	カーボンニュートラルに向けたエネルギートランジションあるいは持続的な鉱物資源開発に関する調査研究
2401-本 27	国内事業部 外国人材受入支援室	2	移住と開発、外国人材受入、多文化共生に関連する活動推進／情報取りまとめ活動
2401-本 28	調達・派遣業務部 調達推進第二課	1	JICAのロジスティックスについて学んで、国際協力人材としての競争力を高めよう！国際協力事業に将来携わりたい人必見。
2401-本 29	評価部 評価企画課	若干名	インパクト評価（JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集の作成・更新）
2401-本 30	評価部 事業評価第二課	1	事業評価（教訓活用状況の整理）
2401-本 31	青年海外協力隊事務局 国内グループ参加促進課	6	JICA海外協力隊事業における広報活動の強化

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本01
■部署名：	安全管理部	■募集人数（人）	2
■課名：	安全対策第一課		
■テーマ			
途上国の政治や治安情勢の把握方法とJICA安全対策の基本について学び、日本人の安全な海外滞在に必要な取り組みを考える			
■テーマの概要			
昨今のパンデミックやウクライナ危機など世界情勢、国際関係の大きな変化を受け、グローバルサウスとも呼ばれるJICAの国際協力事業実施対象国と日本・JICAとの関係は益々深まっていくものと思われる。JICAでは長年開発途上国の人々とともに国際協力事業を展開してきている。その際、多くの関係者を現地に派遣してきており、これら関係者の安全な渡航、滞在を確保し続けることが重要な課題となっている。こうした中、2016年にバングラデシュで起きたダッカテロ事件などの教訓を活かし創設された安全管理部では、途上国の政治治安情勢の把握と必要な安全対策の検討、実行、強化に取り組んできている。こうしたことから、途上国の政治、治安動向を中心とした様々な国、地域の情勢の理解と日本との関係構築、海外に進出する日本人、日本企業の安全な活動のあり方等に興味を有する者を対象に、上記テーマでインターンシッププログラムを提供するもの。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
安全管理部では日々JICAの国際協力事業実施の対象となる国々の政治・治安情勢とそれに関係する国際社会の動きを地域・国のレベルで情報収集し、必要な安全対策を即座に実行できるよう、治安の変化をとらえられることを目指した分析も行っている。また様々な国に渡航、滞在する関係者に向けての情報提供や安全対策上の助言、指導も行っている。こうした日々の取り組みを進める上での手法を学ぶ機会を提供し、途上国の政治、治安動向を中心とした様々な国、地域の情勢の理解と日本との関係構築、海外に進出する日本人、日本企業の安全な活動のあり方というテーマでのレポート作成に取り組む。			
■参考情報			
https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
日程によっては関係者向け安全対策研修を見学できる。 https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/20180223_02.html			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：インターン参加者の都合を考慮したい		可	週2, 3回程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語読解力		
望ましい	特定の地域、国の政治、国際紛争、外交、国際関係に関する基礎知識		
望ましい	語学は仏、西、露、アラビア語といった他の国連公用語でも可。相談に応じる。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本02
■部署名:	広報部	■募集人数(人)	2
■課名:	地球ひろば推進課		
■テーマ 国際理解教育/開発教育支援事業に関する広報業務及びその取り組みサポート			
■テーマの概要 地球ひろば推進課は、JICAがこれまで培ってきた国際協力の知見を活かして、世界の課題や日本との関係についての理解を促し、課題解決への取り組みに参加する力を養うため、学校教育を中心とした国際理解教育/開発教育支援事業各種を行っています。具体的には、教育委員会、教員、児童生徒を主な対象に、日本各地のJICA国内拠点と連携しながら、SDGsの取組、多文化共生、キャリア教育、社会に開かれた教育など学校現場の課題に貢献すべく、次の事業を行っています。 ・教員・教育委員会向け研修プログラムの実施・取りまとめ ・中高生向け国際協力エッセイコンテストの実施 ・学校教育向け教材(映像教材含む)の開発・活用促進 ・JICA地球ひろばでの展示の企画・運営、イベント・セミナーの開催 等 インターンの方には、上記開発教育支援事業に参加し、地球ひろば展示やイベント及び開発教育教材に関する検討・提案・実施する活動を中心に、その他関連業務のサポートも含め担当いただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ●メイン業務①: 展示イベントの企画・運営・PR 10月初旬(予定)に開催予定のグローバル・フェスタに関する事前準備及び当日運営・PRをお願いします。 ●メイン業務②: 地球ひろばInstagram運営及びコンテンツ作成 Instagram運営メンバーのリーダーとしてメンバーの取りまとめや運営管理をお願いします。また、投稿コンテンツ作成にも協力いただきます。 ●サブ業務①: 開発教育に関する各種イベントへの参加、広報 以下のイベント及び研修に参加し、写真・動画撮影、取材、編集の上、効果的な広報の検討・提案・実施をお願いします。研修参加時には、研修の内容に関する記事を作成いただきます。 ・開発教育指導者研修参加者(教員)の授業実践、公開研修、開発教育オンラインイベント ・その他JICA地球ひろばイベントにかかる企画・運営及び効果的な集客・PR ●サブ業務②: 開発教育に関する庶務を含む取り組み活動サポート及び広報 開発教育教材や資料整理等、庶務を含む開発教育支援事業サポート及びその他広報活動をお願いします。			
■参考情報 ・JICA地球ひろばHP https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html ・JICA地球ひろば展示 https://www.jica.go.jp/hiroba/information/exhibition/index.html ・JICA地球ひろばInstagramアカウント https://www.instagram.com/jica_gp/ ・JICA開発教育教材 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/education/index.html ・国際理解教育/開発教育指導者研修 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/seminar/recruit.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 上記のとおり、当課で行うイベントや視察には積極的に同行いただきます。			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3回、3ヶ月間
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・業務内容の性質上、受入期間はフルタイムではなく、週3日×3か月間を想定していますが、相談可能です。 ・東京近郊の学校訪問等の可能性があります。(日帰り。交通費は当課所有のSUICA貸出、負担します。) ・勤務日・勤務時間は可能な限り各種イベントの開催日に勤務できるように調整していただけるとありがたいです。なお、イベントは土日祝日や夜の時間帯が含まれる場合もあります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本03
■部署名:	人事部	■募集人数(人)	1
■課名:	開発協力人材室		
■テーマ JICAの国際キャリア総合情報サイト「PARTNER」の若年層へのアプローチ			
■テーマの概要			
<p>1) PARTNERは、「オールジャパンの国際協力活動促進」という理念のもと、国際協力に関わる、及び関心を有する全ての方々のために、JICAの情報のみならず、国際機関、開発コンサルティング企業、NGO、国際協力関連機関、政府機関・地方自治体等の国際協力関連情報を一元的に発信しています(求人、研修セミナー、その他キャリアコンテンツ)。</p> <p>2) 少子高齢化、内向き志向を受け、若年層の国際協力への関心の低下が指摘される中、若年層へのアプローチ強化を目的の一つとして、2024年4月にPARTNERをリニューアルしました。インターンの方には、若年層へのアプローチに関する提言、実際の施策の補助を行っていただきます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>①リニューアル後のPARTNERサイト全体の大学生目線でのレビュー</p> <p>②大学生以下の若年層を対象とした国際協力参画のハードルについての調査と提言(新コンテンツ「PARTNER's LIFE」企画への布石)</p> <p>③中高生が関心を持ちそうなPARTNER掲載イベントの抽出(新コンテンツ「ちょっと変わった国際協力」を意識)</p> <p>④若年層向け広報の補助(データ作成、広報先の提案、情報発信等)</p> <p>⑤グローバルフェスタの補助</p>			
■参考情報			
<p>PARTNERサイト: https://partner.jica.go.jp/home</p> <p>PARTNER FB: https://www.facebook.com/jicapartner</p> <p>PARTNER X: https://twitter.com/jica_partner</p> <p>ROOKIESサイト: https://partner.jica.go.jp/Contents/Rookies</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
グローバルフェスタ、各種キャリアイベント			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 2ヶ月間(2週間からの受入も可とする)		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2-3回, 2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	若年層向け(大学生以下)の国際協力キャリア関連コンテンツ発信について提案をいただける方		
望ましい	国際協力人材育成やキャリア構築支援に関心がある方		
■提供可能な執務環境等			
□完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>・応募前にJICAの国際キャリア総合情報サイトPARTNERをご覧ください。</p> <p>・PARTNERはJICA以外のアクターも含めた横断的な国際キャリアの総合情報サイトです。JICA事業の広報を行うサイトとの違いをご理解いただいた上で、現在の若年層のキャリア意識を反映し、現行のPARTNERサイトへの気づき、国際協力への参画を促すような改善提案を歓迎します。</p>			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本04
■部署名:	人事部	■募集人数(人)	1
■課名:	健康管理室		
■テーマ 国際協力のための健康管理データ活用			
■テーマの概要 JICA人事部健康管理室は国内外で活躍するJICA関係者の安全と健康を守る部署です。これまででは主に紙の情報を中心に業務を行っていましたが、新システムの導入をはじめとして扱う情報の電子化が進められています。これらの電子化された情報を活用して健康管理業務に役立てることが求められています。本インターン業務では予め匿名加工された健康管理データから対象を分析して健康管理業務に役立てる知見を得るための検討、または、DX等による効率化等の提言・報告をしていただきます。分析・検討対象や方法等は活動期間及び関心に応じて相談して決定することを想定しています。 本件はSDGsの目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」と関連しており、活動の成果がそこに貢献することを期待しています。保健医療分野の専門性がなくても、データの分析を通じて、開発途上国の医療事情の傾向を理解し、健康管理支援を受ける側の立場で提言を行うことに関心があれば、従事いただけます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・健康管理室業務に係るオリエンテーション（在外健康管理員向け研修の録画教材の視聴を含む） ・Microsoft Excelを使用した匿名加工された健康管理データ（海外JICA関係者傷病関連データ、JICA従業員の産業保健対応データ等）の集計・分析、または、JICA事業における健康管理業務についてのDX化等の検討 ・活動を通して得られた知見を報告書にまとめて報告会での発表 ・健康管理室内関係者との意見交換を踏まえて、効果的な健康管理に向けた提言の検討。 ・インターンシップを通じて把握したJICAの健康管理業務全般における課題や提案の室内報告 ※期間及び関心に応じ、データの分析方法や提言内容は相談できます。その他、インターンによる提案業務も相談に応じます。 ※希望があれば国際協力の現場経験を有する関係者や、開発途上国の保健医療関連プロジェクトの担当者へのヒアリングや活動のレビューをする機会を設けることもできます。			
■参考情報 クロスロード2022年8月号 [特集] JICA健康管理室が監修 派遣国の病気・ケガ対策 https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/202208/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA内で開催される各種オンラインセミナーの聴講			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 4ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週数回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Office (Word、Excel、PowerPoint) の基本操作		
望ましい	統計分析の基本的知識 (分析ソフトはMicrosoft Excelのみ)		
望ましい	医療・健康管理・産業保健関連知識		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 JICA人事部健康管理室では、医師(非常勤)約20名、国内健康管理員(看護師)約20名を擁し、海外約60か国に派遣する在外健康管理員(看護師)約60名と日々健康情報をやり取りしています。要配慮個人情報等、機微な情報に触れる部署のため、活動を通じて得られた情報に係る守秘義務を、本活動参加後も厳守願います。この活動で用いるデータを研究論文に用いるには、データの利用に制約がある場合がありますので、必ず事前に相談をお願いします。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本05
■部署名:	管理部	■募集人数(人)	2
■課名:	債権管理第二課		
■テーマ 債権管理活動のサポート(途上国債務問題、債権回収事務手続き改善、JICA内PR素材作成)			
■テーマの概要 近年、低所得国を中心として開発途上国の公的セクター(政府や政府系機関等)の海外からの借入が増加し、債務持続可能性に対する懸念が高まっています。本インターンシップにおいては、開発途上国の債務問題や債権国の対応状況に対する関心や知識を活かして、開発途上国債務問題に関する資料整理をしていただきます。また、JICAの活動の柱の一つである資金協力活動(経済社会インフラ開発のための長期低利融資)のうち債権回収活動を行っている当課において、債権管理活動の改善に資する手続き改善及び当課活動の内部PRのための素材作成に貢献していただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 一人のインターンが以下の活動のいずれか(複数でも可)を行っていただくことを想定します。 ■近年の開発途上国が直面する債務問題・債権国の債務措置の動向・具体的対応についてまとめる。 ■Microsoftのソフトウェア等を活用した債権管理活動の効率化・自動化をサポートする。 ■管理部の内部PR素材作成			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2回、4ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	途上国債務問題にかかる知識		
必須	Microsoftのソフトウェア(Word, Excel, Sharepoint, Power Automate)を使った経験。		
望ましい	Power Automate等簡単なノーコードプログラミングの経験		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本06
■部署名:	企画部	■募集人数(人)	1~3
■課名:	総合企画課		
■テーマ JICAにおけるイノベーション推進の企画・運営、SDGsに関連する情報収集・分析・発信(大阪・関西万博関連活動を含む)			
■テーマの概要 JICAの事業全体を統括する企画部では、「イノベーション・SDGs推進班」を設け、SDGs達成への貢献・開発インパクトの拡大を目指し、国内外の幅広いパートナーとの連携やイノベーション推進に取り組んでいます。従来の方法や前例にとらわれず、よりよい開発を実現していくために、「共創」「革新」を重要なアクションとしてとらえ、組織内の仕組みづくりや機運醸成、外部連携や広報等に注力しています。 本インターンでは、JICAが未来に向かって変化を起こしていくための機運醸成(広報・発信・イベント企画等)に主として参画いただきながら、イノベーション推進のための制度設計等をサポートいただく予定です。また、当班では、取り組みのひとつとして、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会との包括連携協定を締結し、2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)を通じてSDGsの達成及びSociety 5.0の実現に貢献することを目指しています。本インターンでは、大阪・関西万博の機運醸成にも資する各種イベントの開催に向けて、SDGsに関連するJICA内外の動向・取組の情報収集・分析・発信にも携わっていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成等を実施いただくこととなります。 ・JICAにおけるイノベーション推進のための機運醸成戦略の策定・運営 ・JICAのSDGsに関する情報収集・対外発信業務支援活動 ・大阪・関西万博に向けた各種フォーラム・催事等の開催準備に係る業務支援活動			
■参考情報 SDGs(持続可能な開発目標)とJICA https://www.jica.go.jp/aboutoda/sdgs/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までのうち 2-3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2-3回、2-3ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	広報・マーケティング等に意欲が高いこと		
望ましい	JICAの掲げる重要アクション「共創」「革新」に共感し、体現する意欲が高いこと		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 担当職員とも相談しながら、ご自身の強みや個性を最大限発揮いただけるようインターン内容を構築いたします。積極的なご応募をお待ちしております。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本07
■部署名：	東南アジア・大洋州部	■募集人数（人）	3
■課名：	東南アジア第三課		
■テーマ			
日越大学の新しいキャンパス整備・学園都市構想の計画づくりのための日越大学生の生活環境調査（Webアンケート、インタビュー）			
■テーマの概要			
<p>日越大学は、サステナビリティを学ぶ総合大学として8年前にベトナムで開学しました。現在は4つの学部プログラムと、6つの大学院プログラムを提供し、約700名の学生が在籍しています。JICAは日本の大学とともに日越大学の教育・研究活動やキャンパスの整備を支援しています。日越大学ではハノイ市郊外のホアラク（Hoa Lac）地区に新しいキャンパスを整備し、昨年からの移転を開始しました。このホアラク地区はハノイ中心部から西へ約40Kmに位置し、将来的にはバスや電車などの交通インフラや、住宅、病院、スポーツ、商業施設などの生活インフラの整備も計画されています。このインターンシッププログラムでは、日越大学の学生を対象にWebアンケートやオンラインインタビューを実施し、学生生活の概要を把握します。また、今後ホアラク地区での新生活に求められる環境、サービス、活動を検討し、提案としてとりまとめます。このインターンシッププログラムを通じて、両国関係者が日越大学の新しいキャンパス整備・学園都市構想の魅力向上について議論します。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>このインターンシッププログラムは、週1～2回の頻度でグループワークを実施し半年かけて調査を進めます。基本的にオンラインでの活動となり、一部の活動には日越大学の学生も参画します。想定されるスケジュールは以下のとおりです。</p> <p>8月 日越大学・ホアラク地区学園都市構想に関する情報収集、課題の把握</p> <p>9月 調査の準備（①Webアンケート、②オンラインインタビュー）</p> <p>10月 調査①Webアンケートの実施、結果の分析、中間発表</p> <p>11月 調査②オンラインインタビュー調査の実施、結果の分析</p> <p>12月中旬までに 調査結果に基づく提案の検討、とりまとめ、発表</p>			
■参考情報			
<p>日越大学に対するJICAの協力 https://www.jica.go.jp/Resource/project/vietnam/057/index.html 日越大学ホームページ https://vju.ac.vn/ja/%e6%97%a5%e8%b6%8a%e5%a4%a7%e5%ad%a6/</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
日越大学では10月に入学式や設立10周年記念行事を予定しています。これらのイベントにオンラインでの参加が可能です。また、旅費は自己負担となりますが現地から参加頂くことも可能です。			
■受入時期・期間			
2024年8月上旬から12月中旬までの 4ヶ月弱、週1～2回程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週1～2回、4ヶ月弱
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	ベトナムなどアジアでの滞在経験		
望ましい	ベトナムなどアジアからの留学生との交流経験		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
このインターンシッププログラムはグループで進めるもので、ベトナム人学生も参画予定です。チームで助け合いながら活動することにご関心をお持ちの方のご参加をお待ちしております！！			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本08
■部署名:	中南米部	■募集人数(人)	2~4
■課名:	南米課		
■テーマ 南米地域における国別協力方針策定、民間連携、長期研修員とのネットワーキングに係る業務補助活動			
■テーマの概要 JICAの五つのビジョンの一つは、「共創」です。組織内外の持つ多様な知と資源を活用して活動を進めることが求められます。中南米部南米課は、国際機関、外務省、民間企業、在京大使館等、様々な外部のアクターと接点を持ちながら、下記をはじめとする南米地域での開発協力に取り組んでおります。 (1) JICA国別分析ペーパーの作成支援(対象国:ブラジル) (2) TSUBASA:日本のスタートアップ企業の中南米への事業展開支援を通じた、開発課題への貢献 (3) 長期研修員との連携支援(SDGsグローバルリーダープログラム) インターンの方には、効果的な外部との連携方法を模索・検討しつつ、上記事業に参加いただきます。また、その他の南米課業務のサポートも含め担当いただく予定です。 ※応募書類には、(1)~(3)の中で特に取り組みたい活動に関して記載をお願いします。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンは、各担当とチームを形成し、以下いずれかの活動を行っていただきます。 (1) JICA国別分析ペーパーの作成支援。(対象国:ブラジル) ・対象国の政治、マクロ経済、産業構造等の情報収集、JICA及び他ドナーの協力状況の情報収集と整理補助 ・JICA内関係部署や、必要に応じて、在外公館、他ドナーやNGO、民間企業との意見交換への参加等 (2) TSUBASA:日本のスタートアップ企業の中南米への事業展開支援を通じた、開発課題への貢献 ・日本側のイノベーションエコシステムとの連携強化のための調査および連携実施 ・各種イベント(TSUBASA2024キックオフイベント準備、宣伝活動、民連部との協働イベント等)のアイデア出し、資料作成、イベント当日のお手伝い (3) 長期研修員との連携支援(SDGsグローバルリーダープログラム) ・中南米各国から来日している長期研修員とのネットワーキング会の企画、運営の補助 インターン活動の初めと終わりに、活動内容について中南米部内で発表する機会を設けます。 その他、インターンによる提案業務も検討可能です。			
■参考情報 ※TSUBASAについては以下サイトをご参照ください。 https://tsubasa-jica.com/ ※SDGsグローバルリーダーコースについては下記をご参照ください https://www.jica.go.jp/Resource/regions/america/plaza/sdgs.html (ネットワーキング会の様子) https://www.jica.go.jp/Resource/dsp-chair/english/dsp/course/content/ku57pq00002ma5q9-att/brochure_01_j.pdf (コース紹介パンフレット)			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・TSUBASA各種イベント ・海外移住資料館への訪問 など			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2~5回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	国際協力に関心がある、JICAをよく知りたい		
望ましい	中南米に関心がある		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 地域部は対象とする地域に係るJICA協力の全体像が把握できる部署であり、また特定の国の複数の開発課題を見ることができる部署です。中南米各国の特徴を踏まえた開発の在り方を検討しつつ、JICAの最も大切に根幹となる活動の一部をリアルに体験されたい方、大募集です。 一部リモートでの参加も可ですが、可能な範囲で週1以上は対面で参加されることを推奨します。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本09
■部署名:	中南米部	■募集人数(人)	2
■課名:	中米・カリブ課		
■テーマ 中米・カリブ地域における協力の整理と今後の方向性の検討、中米・カリブ地域のJGA取り組み促進に向けたセクター情報の整理			
■テーマの概要 中米・カリブ地域における過去の協力を地域及びテーマで整理し、過去のアセットを活用した新規協力につなげる。また、中米・カリブ地域で実施する事業のサポートを通じて国際協力についての理解を深めるとともにこれらをJICA内外に発信し広報力の強化に貢献する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 中米・カリブ地域を中心としたJICA事業の理解促進（ブリーフィング、会議参加等） 2. 過去の協力に係る情報収集と整理（中米・カリブ課メンターとの協働） 3. 新規事業「環境KIDSエキスパート」やスタートアップ支援「TSUBASA」事業等の支援 4. 中米・カリブ地域事業における広報の支援 5. キャリアプラン形成に向けたオリエンテーション及びリソースパーソンとの面談の実施 6. 会議、外勤等を通じた外部ステークホルダーとの協議への参加 7. 関連テーマに関するプレゼンテーションの実践（2回程度）			
■参考情報 特に2024年は日本・カリブ交流年、ジャマイカ外交60周年、2025年は中米諸国と外交関係90周年であり積極的に広報活動に取り組みたい。広報イベントなどへの支援を期待する。			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA国内拠点への訪問等			
■受入時期・期間			
2024年7月から12月までの 2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3回、2ヶ月間/4週間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	スペイン語力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本10
■部署名:	中東・欧州部	■募集人数(人)	2
■課名:	ウクライナ支援室		
■テーマ 日本国内のウクライナ避難民支援とウクライナ復旧・復興支援をつなぐ取り組みの形成・実施			
■テーマの概要 ロシアによる侵略は多くのウクライナの人々の生活に影響を及ぼしています。国外約800万人以上、国内約500万人の避難を余儀なくされた人々に対する支援が継続的に必要な状況です。日本は約2,000人のウクライナ避難民を受け入れており、政府、日本財団、自治体やNGOが中心となり行政手続き含む受入支援や、日本語教育・就労支援等の生活支援が行われています。避難民の多くは将来的に母国への帰国を希望しているものの、戦争の激化・長期化に伴い帰国への見通しが立たず、ストレス緩和・メンタルヘルスケア・コミュニティ形成支援等も必要です。JICAは、開発途上国に対する支援に加え、市民参加、民間連携事業、外国人材受入れ・多文化共生支援等の取り組みを実施していますが、「避難民への支援」もJICAにとって重要な取り組みの一つです。避難民の方々に寄り添って、彼らの抱える課題を解決し、さらにウクライナの復旧・復興につなげる活動を支援できる案件の形成や実施に向けた取り組みを一緒に考え、行動できる熱意ある仲間を募集します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 <ul style="list-style-type: none"> 国内ウクライナ避難民支援にかかる他ドナー支援・分析 国内ウクライナ避難民を対象としたキャリア支援・JICA研修事業等の補助 国内ウクライナ避難民に対する伴走型支援(個別モニタリング、キャリアサポート等) その他、ウクライナ復興関連の調査・研究補助(Green Recoveryなど) 上記活動を通じた2024年度下半期に向けた提言 ※内容は変更となる場合がございます。			
■参考情報 <ul style="list-style-type: none"> JICA各国における取り組み・ウクライナ https://www.jica.go.jp/ukraine/index.html JICA採用HP「ウクライナ支援の現場」https://www.jica.go.jp/recruit/shokuin/frontline/feature/feature07.html 			
■参加(同行)可能な行事・視察等 <ul style="list-style-type: none"> 関係団体への訪問及び面談、JICA国内機関への訪問等(基本的に関東地域を想定していますが、居住地域等によって応相談) 			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	ウクライナ人留学生やウクライナに詳しい方を歓迎します		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本11
■部署名:	民間連携事業部	■募集人数(人)	1
■課名:	計画・連携企画課		
■テーマ JICA民間連携事業部での就業体験:「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報活動、他機関との連携活動			
■テーマの概要 日本の民間企業は、様々な分野で優れた製品・技術・サービスを有しており、開発途上国の社会的・経済的課題の解決に貢献する可能性を持っています。JICA民間連携事業部では「中小企業・SDGsビジネス支援事業」(※1:参考情報欄のリンクをご確認ください)を通じて、企業の開発途上国におけるビジネスづくりを支援しており、今後、更にこうしたビジネスの成功例を積み上げ、拡大していきたいと考えています。 このインターンシップでは、より多くの企業に「中小企業・SDGsビジネス支援事業」をご活用頂くため、本事業を活用した企業の成功事例について、JICAウェブサイトに掲載する広報記事作成を行って頂きます。インタビューを通じて企業の想いに触れながら、ビジネスによる開発課題の解決について理解を深めて頂ければと考えています。また、JICA外の関係機関(各種支援機関、金融機関、研究機関、自治体等)との連携業務活動を通じて、多様なアクターと連携し、相乗効果を目指す取り組みについても経験をして頂ければと思います。 「民間連携」、「価値共創」、「SDGsへの貢献」などに関心を持つかたからのご応募を歓迎致します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 (1)「中小企業・SDGsビジネス支援事業」についての広報活動 ・「中小企業・SDGsビジネス支援事業」に参画頂いた企業の成功事例を掲載する「グッドプラクティス(案件紹介)」ページ(※2)の記事作成を行う。民間連携事業部関係者に記事化の要望を確認し、対象企業を決定。その後、企業に取材し、記事執筆・原稿確認・ウェブ掲載を行う。 ・その他、Facebook運営、メディア取材対応、メールマガジン発行、セミナー開催等の広報業務の補助活動を行う。また関連の打合せに参加する。 (2)他機関との連携業務補佐活動 ・他機関との連携関連の打ち合わせに同席し、準備や議事録作成を行う。			
■参考情報 (※1) 中小企業・SDGsビジネス支援事業: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/activities/index.html (※2) グッドプラクティス: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/case/release/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの間で2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2~3回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本12
■部署名:	ガバナンス・平和構築部	■募集人数(人)	1
■課名:	STI・DX室		
■テーマ デジタル分野に関するJICA事業の活動補助及び研修事業への参加			
■テーマの概要 JICAガバナンス・平和構築部STI・DX室では、開発途上国における、デジタル・データを活かした、人びとの安全を確保する持続可能で強靱な社会、一人ひとりが多様な機会・幸せを実現できる社会の実現を目指した業務を行っています。また、デジタル分野の協力においては、大きく①各分野課題でのDX推進②デジタル社会の基盤整備といった二つの柱を立て、取り組んでいます。(詳細は、参考情報のグローバルアジェンダ『デジタル化の推進』をご覧ください。) 本ポストでは、①各分野課題でのDX推進もしくは②デジタル社会の基盤整備と2つの側面から活動に携わっていただき、開発途上国及び日本におけるデジタル分野の開発事業に関しての知見を深めて頂くことを目的に活動いただきます。具体的には、インターン生の関心分野×DXにて課題／テーマを設定いただき、ガバナンス・平和構築部STI・DX室が主管する研修やプロジェクトの打合せへの参加、関連情報のデスクトップ調査等を通じて、JICA事業への理解を深めていただくことを想定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 下記の中から、参加者の関心事項に合わせて活動を行います。 ただし、①の活動は必須とし、それ以外の活動は②③④を想定していますが、育成担当者・参加者と相談の上、決定いたします。 ① STI・DX室が主管する、研修(国内向け、海外向け)へのオブザーバー参加及び次年度以降の実施に向けた改善策の提案 ② 開発途上国のICTインフラ・産業振興・サイバーセキュリティ・公共インフラやJICA事業のDX推進に関する協議への参加 ③ 開発途上国のICTインフラ・産業振興・サイバーセキュリティ・公共インフラやJICA事業のDX推進に関する、取り組み(関連政策やドナーの取り組み等)調査 ④ 自身の研究内容若しくは関心事項でJICA事業へ関連する事項			
■参考情報 ・JICA グローバル・アジェンダ(課題別事業戦略)15. 「デジタル化の促進」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/digital/ei8tc50000005j05-att/digital_text.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・2024年8月上旬 国別研修 マレーシア「LEP2.0 コミュニケーション・マルチメディア産業」 ・2024年8月下旬 課題別研修 「ICT・DX技術の活用による郵便インフラシステムの課題解決」 ・2024年9月中旬 国別研修 ヨルダン「AIエコシステム促進プロジェクト」 ・2024年9月下旬 課題別研修 「サイバーセキュリティ対策強化のための国際法・政策能力向上」 *インターンの活動期間及び本人の関心事項を踏まえて、いずれかの研修に参加頂きます。 *全ての研修は東京近郊で実施されます。 *国別研修、課題別研修は、研修員受入事業(短期)にあたります。詳細はこちらをご覧ください。 (https://www.jica.go.jp/tokyo/enterprise/kenshu/index.html)			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3回、2ヶ月間程度等
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	途上国関係者や国際機関関係者と英語でのやり取りが可能である事。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本13
■部署名:	人間開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	基礎教育グループ基礎教育第一チーム		
■テーマ 基礎教育分野における新しい課題への対応及び広報強化支援			
■テーマの概要 人間開発の基盤である基礎教育の改善は国際協力の重要課題です。JICAグローバルアジェンダ「教育」において、基礎教育分野では、SDG4ターゲット4.1「男女の区別なく、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育の修了」を重要課題と設定しており、その中でもコロナ禍でより深刻となった「学習の危機」に対応することを最優先とし、すべての子どもが基礎的な読解力・計算力を身に付けることを目指した協力を実施しています。同時にターゲット4.5に則り、女子、障害児、難民等、取り残された子どもへの教育機会の提供に向け、日本/JICAの強みに応じた協力アプローチを設定しています。これらの大きな目標に向かって着実に成果を上げるべく、これまでのJICA事業の知見や教訓、日本の経験や教訓などを更に有効に活用していくことが望まれています。 今回のインターンシップでは、今後のJICAの教育協力で重要となる「教科書・教材開発を通じた学びの改善」、「コミュニティ協働型教育改善（通称：みんなの学校）」、「誰ひとり取り残さない教育改善」等のテーマを設定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 上記テーマに関連するJICA事業・教育ナレッジマネジメント活動について学んで頂き、関係する職員や専門家、国際協力専門員と議論する機会、会議、勉強会、セミナー等にも参加頂くことを想定しています。特に、JICA、大学有識者、コンサルタント、NGO等関連機関とともに実施する「教育協力ウィーク」においては、教育協力プラットフォームの活動の一環として活発なテーマ別ディスカッションが行われます。この「教育協力ウィーク」の広報や運営全般のサポートを行いつつ、設定したテーマに関連するセッションにはより深く関わっていただくことを期待しています。			
■参考情報 ●JICAグローバルアジェンダ「教育」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html ●2023年9月実施の教育協力ウィーク概要 https://www.jica.go.jp/Resource/topics/2022/20221115_01.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 教育協力ウィーク、内部外部の会議や勉強会、関係部署、専門家、国際協力専門員との協議・ヒアリング			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 3~4週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際教育協力を研究していること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 インターンの機会を利用して積極的に教育協力におけるご自身のキャリア育成に取り組みたいと考える意欲のある方のご参加をお待ちしています。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本14
■部署名：	人間開発部	■募集人数（人）	1～2
■課名：	高等教育・社会保障グループ高等・技術教育チーム		
■テーマ			
高等・技術教育分野における国際動向調査・大学間ネットワーク強化			
■テーマの概要			
JICAグローバル・アジェンダ（教育）の「拠点大学強化クラスター」では、各国・地域の高等教育セクターを牽引する拠点大学を協力対象とし、教育・研究・運営能力の強化を通じて高度人材の育成を促進するとともに、当該国内や周辺国の他大学とのネットワークを構築して留学生の受け入れや研究協力を実施することで、当該国・地域の高等教育セクター全体の底上げに資することを目標としています。同目標の実現に向け、高等・技術教育チームにおいて、高等・技術教育分野に関する国際機関等の動向調査、情報の収集・分析や大学間ネットワーク強化、高等・技術教育分野の取り組みに関する活動（広報、セミナー、勉強会/運営支援等）に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
インターンの受け入れ時期・期間及び関心を踏まえ、以下の両方あるいはいずれかの活動を実施していただきます。 （１）高等・技術教育にかかる国際動向の情報収集と分析、資料作成補助。 （２）大学間ネットワークに関する情報収集と分析、資料作成補助。			
この過程でJICA職員や専門家との打ち合わせ、会議・勉強会・セミナー等に準備段階から参加頂くことを想定しています。			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> JICAグローバル・アジェンダ（教育） https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/index.html JICA 教育協力 ポジションペーパー https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/ku57pq00002cy6fc-att/position_paper_education.pdf JICA 教育だより（JICA教育ナレッジマネジメントネットワーク ニュースレター） https://www.jica.go.jp/activities/issues/education/newsletter.html 			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> 高等・技術教育分野のプロジェクトカウンターパートを対象とした研修への同行及び聴講。 その他、同分野の大学関係者とのセミナー、勉強会への参加等。 			
■受入時期・期間			
2024年8月上旬から10月下旬までの1ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語 TOEIC730点以上		
望ましい	教育分野に関する基礎的な知識		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
志望理由書では、JICAの高等・技術協力分野での協力について上記の「参考情報」等で情報収集した上で、「具体的なインターンシップ活動内容」（１）（２）のうち、特に関心のあるテーマについて記載ください。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本15
■部署名:	人間開発部	■募集人数(人)	2
■課名:	保健第一グループグローバルヘルスチーム		
■テーマ 保健システムリサーチグローバルシンポジウム (HSR2024) 運営補助			
■テーマの概要 JICAは2024年11月18-22日、グローバルヘルス分野で権威ある国際シンポジウムThe 8th Global Symposium on Health Systems Research 2024 (HSR2024) を長崎大学と共催します。HSRは、保健政策や保健システムの研究者らによるグローバル組織Health Systems Global (HSG) が2年毎に開催する世界規模のシンポジウムです。毎回、世界各国の大学、研究者、政府、WHO等の国際機関、財団等2,000名以上が参加し、保健医療制度や政策について、さまざまな視点から議論します。HSR2024では、JICAは、シンポジウム(プレナリー)での登壇、各種セッションの開催・共催・参加、ブース運営、その他イベントなどを開催予定です。JICAのグローバルヘルスへの貢献を発信し、さらにグローバルヘルス分野における日本のリーダーシップを世界に表明する機会になると考えています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 HSR2024の運営・準備に係る当チームの職員の業務の補助的な活動をして頂きます。具体的には以下のような活動を想定しています。 ①HSR2024の運営・準備に関する打合せ・面談等に関する補助的活動(日程調整、資料作成、議事録作成の補助) ②HSR2024のJICA関連の活動(セッションの主催・共催・登壇、ブース運営、イベント企画等)に関する調整・準備における補助的な活動 ③シンポジウム中の国際機関、民間企業等との会議・面談における活動(日程調整、資料作成、議事録作成の補助) ④広報活動(シンポジウムに係るJICAウェブページやSNS等での発信の補助。対外発信資料作成補助) その他、インターン参加者の専門性・経験や関心に応じた人間開発部での保健医療分野活動の補助を含む場合もあります。			
■参考情報 HSR2024 : https://healthsystemsglobal.org/hsr2024/ JICAが長崎大学とHSR2024を共催 : https://www.jica.go.jp/jica_ri/news/topics/2022/20221205_01.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 HSR2024(11/18-22於長崎市)に参加いただきたいと思います。			
■受入時期・期間			
2024年10月から11月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3-4回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	関係機関とのやり取りをメール等で行ったり英語のセッションのメモ取りをできる英語力		
望ましい	保健医療、グローバルヘルスに関する学部・専攻分野又は研究分野での就学経験(就学中含む)		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 長崎への国内出張あり			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本16
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第一グループ第二チーム		
■テーマ 水産分野における国際協力に関する情報収集と支援活動			
■テーマの概要 水産業（漁業及び養殖業）で働く人々は世界でおおよそ5,830万人に上ると推定されます。途上国にとって水産物は重要な外貨獲得源でもあり、水産資源の有効活用が期待されています。また、魚は漁村地域において比較的安価に入手できる動物タンパク源でもあり、水産物の振興は栄養価の高い食料の安定供給にも貢献します。一方、近年は、気候変動に伴う海洋環境・沿岸生態系の変化に加え、乱獲による水産資源の減少により、その約3割が持続不可能な利用と評価されており、IUU 漁業対策を含む資源管理の取組みが求められています。また、増加する水産物需要への対応として、水産養殖の振興が期待されています。そこで、JICAは、漁村の貧困削減と水産食料の安定供給のため、水産資源の適切な管理・活用による水産物の振興に取り組んでいます。本インターンシップでは、これまでの水産分野における技術協力をレビューするとともに、現在実施中の事業の推進に協力いただくことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成などを担当いただくことになります。 ・JICAの水産分野協力事業の実績取りまとめと課題・教訓分析、発信			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA水産分野の各種会議・課題別研修へのオブザーバ参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2回、2ヶ月間
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	理系の学部学科に在籍、または卒業していること（水産、農業・農村開発分野を専攻）		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・本インターンシップを通して、水産分野の国際協力に関する知見を深めたり、会議等に参加する経験を得られます。 ・水産分野に係る知識を必須とはしませんが、円滑な活動の実施のために、水産、農業・農村開発分野を大学にて専攻していることが望ましいです。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助活動も含む可能性があります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本17
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第一グループ第二チーム		
■テーマ 畜産・家畜衛生分野における国際協力に関する情報収集と支援活動			
■テーマの概要 経済成長の著しいアジアの新興国をはじめ、人口増加の続くアフリカにおいても、今後、畜産経営の集約化、家畜飼育頭数と密度の増加が進み、家畜疾病の発生リスクの増大が見込まれ、これに伴い畜産・家畜衛生に係る我が国の技術協力へのニーズが一層高まることが予測されています。こうした中で、JICAは、畜産振興を通じた小規模農家の生計向上及び経済的発展に資するため、家畜の生産性向上、畜産物の高付加価値化、畜産物の流通改善等を通じたバリューチェーン構築を図ると共に、人と家畜、環境の健康を推進する「One Health」の理念を踏まえた家畜衛生の強化に取り組んでいます。 本インターンシップでは、これまでの畜産・家畜衛生分野における技術協力をレビューするとともに、現在実施中の事業の推進に協力いただくことを予定しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成やセミナーの開催等を担当いただくことになります。 ・JICAの畜産・家畜衛生分野協力事業の実績取りまとめと課題・教訓分析、発信			
■参考情報 ・JICAグローバル・アジェンダ（農業・農村開発） https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICA畜産・家畜衛生分野の各種会議・課題別研修へのオブザーバ参加、各種勉強会、在外事務所や専門家へのヒアリング調査			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 2ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2回、2ヶ月間
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	畜産学、獣医学の学部/学科であればなお望ましい		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・本インターンシップを通して、畜産・家畜衛生分野の国際協力に関する知見を深めたり、会議等に参加する経験を得られます。 ・畜産・家畜衛生分野に係る知識を必須とはしませんが、円滑な活動の実施のために、畜産、獣医、農業・農村開発分野を大学にて専攻していることが望ましいです。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助活動も含む可能性があります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本18
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第一グループ第三チーム		
■テーマ 小規模農家向け市場志向型農業振興 (SHEPアプローチ)			
■テーマの概要 JICAは、農作物を「作ってから売る」のではなく「売するために作る」へと農家の行動変容を促し、ビジネスとしての儲かる農業の実践を促進する「SHEPアプローチ」を活用した農業普及事業をアフリカ、アジア、中南米、中東の各地域で実施し、併せてその普及を担うSHEP人材の育成を進めています。また、同アプローチを他ドナー、民間企業等の幅広いアクターに活用してもらうために、効果の検証と発信、事業の実践を通じて得られる知見・教訓の蓄積と共有等のナレッジマネジメントに取り組んでいます。2019年に開催されたTICAD7において、SHEPアプローチを活用した農業普及を少なくとも100万人の小規模農家に届け、より良い暮らしの実現を目指す「SHEP100万人宣言」をアフリカ各国関係者、国際農業開発基金(IFAD)、民間企業関係者と共に表明しました。以降、SHEPの着実な実施とSHEP広域展開のための様々な活動を進めています。2025年上半期には、パートナー国の行政官を対象にした課題別研修やSHEP関連プロジェクトの専門家を一堂に集めたSHEP専門家情報共有勉強会等を企画しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、担当職員と活動の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成・セミナーの準備等を実施いただくことになります。現在想定している内容は以下の通りとなります。 ・SHEP×DX活用事例の情報収集と活用提案 ・SHEP技術協力プロジェクトの立ち上げ支援 ・SHEP課題別研修の実施支援 ・SHEP専門家情報共有・勉強会の実施支援 ・SHEPアプローチの広報に係るレビュー・提案、HPの更新、リーフレット作成など			
■参考情報 ・JICA HP「SHEP(市場志向型農業振興)アプローチ」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 SHEP課題別研修(国内出張の可能性あり)、SHEP専門家情報・共有勉強会			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週3回、2か月程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農学または農業経済学に関する分野を専攻する者		
望ましい	開発学に関する分野を専攻する者		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 ・本インターンシップを通して、農業普及分野の国際協力に関する知見を深める経験を得られます。 ・インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助活動も含む可能性があります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本19
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ 農業・農村開発協力における気候変動対策の推進に向けた国際社会の潮流等の情報収集及び分析			
■テーマの概要 農業・農村は私たちが生きていくために必要な食料生産にとって不可欠な役割を有するとともに、雨水を一時的に貯留し、洪水や土砂崩れを防いだり、多様な生き物を育み、また、農業やコミュニティが維持される農村は、文化の伝承や教育の場など、私たちの生活に活力や潤いを与えるなど、多面的な役割を果たしています。 近年、気候変動によって洪水や干ばつなど自然災害が頻発し、農林水産の生産の場だけでなく、生活の基盤も揺るがす事態が発生しており、気象の変化がこれら農村での生産・生活に密接に関係している中で、気候変動に対してどのように適切に対処していくべきか検討することは重要かつ喫緊な課題です。 そのため、経済開発部では国際社会での議論も踏まえ、農業・農村開発分野に関する気候変動対策の取組を検討しています。 将来気象予測はCOP(気候変動に関する国際連合枠組条約)などにおいて、様々な議論がなされていますが、更なる検討が必要です。 本プログラムでは農業・農村開発分野での気候変動対策を推進するための情報収集や分析、またその結果に応じた気候変動適応策の検討などを行うこととします。			
■具体的なインターンシップ活動内容 地球温暖化(気候変動)の対策には、その原因物質である温室効果ガス排出量を削減する(または植林などによって吸収量を増加させる)「緩和」と、気候変化に対して自然生態系や社会・経済システムを調整することにより気候変動の悪影響を軽減する(または気候変動の好影響を増長させる)「適応」の二本柱があります。 地球環境のためには両方の対策を検討していく必要がありますが、特に適応策を講じるためには将来の気象見通しを明確に把握する必要があります。地球全体が一律に気温が上昇したり、降水量が変化したりするのではなく、地域偏差が生じると予想されるからです。 そのため、各国へ融資を行う世界銀行等の開発協力銀行や国連機関では将来の気象見通しに関する研究を進めています。この将来の気象見通しは、あくまで予測値であり、分析結果は様々であることから、それぞれの機関の取組方針とともに、将来気候をどう捉えているのか、分析する必要があります。 インターンシップの活動ではこれらの国際社会の潮流などの情報収集及び分析の補助を実施していただきます。			
■参考情報 JICAグローバル・アジェンダ「農業開発/農村開発」(気候変動対策についても言及) https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html JICAグローバル・アジェンダ「気候変動」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/climate/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 経済開発部では本取組の推進のため、サブタスクを設置。サブタスク事務局会合への出席、有識者委員会への参加を想定。			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由: 弊部での検討は10月以降も継続実施予定のため		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野等の専攻であること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本20
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ 世界各国における農業保険制度の情報取りまとめおよび分析			
■テーマの概要 農業はその年の降雨、気温等の自然環境によって多大なる影響を受けると同時に、病害虫の発生等の幅広いリスクを抱えている産業です。日本では、農業に関する多様なリスクをカバーする収入保険、自然災害によるリスクをカバーする農業共済等の仕組みがあり、農業者の方がリスクを減らしつつ農業に取り組むことができる環境が政府も関わる形で整備されています。 一方で、開発途上国ではこのような制度が整備されていない場合が多く、また民間の保険会社単体ではリスクの高い農業分野に進出することは容易ではありません。気候変動の影響は開発途上国でより深刻であると言われており、特に開発途上国の農家の方が持続的に農業を営めるようにするためにはリスクを軽減する仕組みを導入することが求められています。 JICAではエチオピア及びインドネシアにて、インデックス型農業保険の導入に関する技術協力を実施しています。農業保険の制度はそれぞれの国によって異なり、政府と民間の役割分担、補助金の有無や割合等、様々な形態が存在しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 エチオピアおよびインドネシアにて農業保険の制度に関する取り組みを実施する中で、他国の農業保険の事例およびその発展過程を参考にすることが有用です。 本インターンシップでは先進国および開発途上国において整備されている農業保険の制度について、オンラインや既存のレポート等の文献を用いて、以下のような情報の収集・分析の補助活動を実施していただきます。 【収集する情報の例】政府と民間の役割分担、その制度に関わっている組織、補助金の割合やその変遷、対象としているリスクの種類、損害が発生した際の補償割合、農業保険運用の仕組み等			
■参考情報 JICAグローバル・アジェンダ「農業開発/農村開発」(気候変動対策についても言及) https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/index.html JICAグローバル・アジェンダ「気候変動」 https://www.jica.go.jp/activities/issues/climate/index.html エチオピア国農村レジリエンス強化のためのインデックス型農業保険促進プロジェクト(ODA見える化サイト) https://www.jica.go.jp/oda/project/1600448/index.html インドネシア国農業保険実施能力向上プロジェクト(ODA見える化サイト) https://www.jica.go.jp/oda/project/1600631/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 2024年6月頃開始予定のインデックス型農業保険促進アドバイザーに関する打合せ、定例会への参加。			
■受入時期・期間			
2024年7月から8月までの 1か月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由: 農業保険関連の技術協力プロジェクトは継続して実施予定のため。	可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野等の専攻であること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本21
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	農業・農村開発第二グループ第四チーム		
■テーマ アフリカ稲作振興のための共同体(CARD)に関連する情報取りまとめ及び分析			
■テーマの概要 2008年TICAD IVIにおいてアフリカでのコメ生産倍増を目指す国際的なイニシアティブ「アフリカ稲作振興のための共同体(Coalition for African Rice Development: CARD)」を立ち上げた。JICAに加え、アフリカの機関、国際機関等が参画し2018年まで10年間にわたりアフリカでの稲作振興に取り組んだ結果、初期の目標(1,400万t⇒2018年2,800万t)を達成した。しかし、アフリカでの著しいコメ需要の伸長及び食料安全保障の観点から、更なる倍増(2,800万t⇒2030年5,600万t)を目指し、2019年からCARDフェーズ2を開始した。現在は、サブサハラアフリカの計32カ国を対象にコメ生産の強化に向けてRICEアプローチ(Resilience, Industrialization, Competitiveness, Empowerment)の推進、他機関との連携強化、戦略的な人材育成(現地、日本)、本邦民間企業の進出促進支援などに取り組んでいる。			
■具体的なインターンシップ活動内容 実施中プロジェクトとの定例会等への参加や、過去の報告書等を参考に以下のような情報を取りまとめ、分析を行う。 ・CARD関連の過去の技術協力プロジェクトの成果、教訓の整理 ・CARD関連の実施中の技術協力プロジェクトの現状把握、取りまとめ、課題の抽出 なお、案件数が多いので、稲作技術、種子、普及、農業機械化等の特定のテーマに絞って取りまとめ、分析を行って頂くことを想定していますが、CARDの枠組みで何かテーマを設定して情報収集、分析頂くことも可能です。何か具体的な関心があれば、応募・面接時にご提案下さい。			
■参考情報 ・アフリカ稲作振興のための共同体(CARD) https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/card.html ・CARDホームページ (https://riceforafrica.net/)			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・JICA筑波での研修等CARD関連で同行可能なものがあれば適宜お声がけします。			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの期間で 1ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農学または農業経済学に関する分野を専攻、または興味と知識を有すること。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本22
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ 中央アジアにおける観光プロモーション支援業務補佐活動			
■テーマの概要 多くの国や地域において、観光セクターは経済成長や雇用機会創出の牽引役として大きな期待を集める分野となっています。国連世界観光機関 (UN Tourism) は、観光はSDGsの17すべてのゴールに貢献できる唯一の産業であるとの見解を示しており、観光開発はSDGs達成のドライバーになると捉えています。JICAは、観光を活用した持続可能な地域経営の実践を支援することで地域を取り巻く経済、社会、環境面の課題解決に総合的に取り組み、地域資源を有効利用した自律的で質の高い成長の確保を目指しています。今般、中央アジア5か国（キルギス、ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタン）の観光行政・民間事業者を対象に観光開発政策に係る能力強化研修を本邦にて実施する予定となっており、5か国連携となった観光プロモーション活動の実践の場として9月下旬に開催予定のツーリズムExpo（詳細は参考情報を参照）にブースを出展する予定です。本インターンシップでは、中央アジアもしくは観光開発への関心や知識を活かして、ツーリズムExpoに向けた業務を中心に取り組んでいただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について担当職員と活動の内容や進め方など相談しつつ、主体的に活動を進めていただきます。 ・中央アジア5か国ならびに近隣諸国の観光関連情報収集・まとめ ・中央アジア5か国連携ブース出展に向けて関係者間協議への参加（在京大使館、研修員、JICA関係部署などを想定） ・ツーリズムExpoブース設営・運営支援（来場者への案内など） ・ツーリズムExpoブース来訪者に向けたアンケートの実施と結果のとりまとめ ・ツーリズムExpo出展全般ならびに中央アジア5か国連携観光プロモーションに係る提言・教訓のとりまとめ ・ツーリズムExpo出展に係る広報支援			
■参考情報 https://www.t-expo.jp/public/about https://www.jica.go.jp/Resource/activities/issues/private_sec/tourism/g1kr.jk0000006vxg-att/20220915_01.pdf https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12363966.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・関係団体への訪問・面談 ・ツーリズムExpo2024 ・課題別研修への同行			
■受入時期・期間			
2024年8月上旬から10月中旬までの 2.5カ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：ツーリズムExpoの開催ならびに研修員受け入れ期間に合わせる必要があるため	可	週3回、2.5カ月程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	観光セクターもしくは中央アジアに関する興味・知識を有すること		
必須	Microsoftのソフトウェア（Word, Excelなど）を使った活動経験		
望ましい	Googleフォームなどを活用したアンケート実施と取りまとめ		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 インターン場所はJICA本部経済開発部内及び在宅勤務を予定しています。勤務体系は柔軟に対応します。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本23
■部署名:	経済開発部	■募集人数(人)	1
■課名:	民間セクター開発グループ第一チーム		
■テーマ 中小・SDGsビジネス支援事業活用企業による日本人材開発センター(通称:日本センター)の活用状況調査			
■テーマの概要 「日本人材開発センター(通称:日本センター)」は、市場経済移行国における「顔の見える援助」として、またビジネス人材育成と日本との人脈形成の拠点として構想され、2000年より順次開設されてきました。現在では、東・中央アジア、東南アジア地域の9カ国に10センターが設置され、ビジネス人材育成と現地経営人材、日本企業間のネットワーク構築を支援しています。一方でJICAは「中小企業・SDGsビジネス支援事業」(※1:参考情報欄のリンクをご確認ください)を通じて、企業の開発途上国におけるビジネスづくりを支援しており、今後、更にこうしたビジネスの成功例を積み上げ、拡大していきたいと考えています。このインターンシップでは、日本センターを日本企業に活用いただき、現地企業とのネットワーク構築がさらに進んでいくことを意図して「中小企業・SDGsビジネス支援事業」活用企業を対象に、日本センターの活用状況や同センターへの期待について調査していただきます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について担当職員と活動の内容や進め方など相談しつつ、主体的に活動を進めていただきます。 ・「中小企業・SDGsビジネス支援事業」、「日本人材開発センター(通称:日本センター)」に関する情報収集 ・企業向けアンケート作成 ・対象国の「中小企業・SDGsビジネス支援事業」活用企業へのアンケート実施・とりまとめ(一部企業へのヒアリングを含む) ・取組みのフィードバックおよび提言のとりまとめ ・日本センター関連業務の補助活動			
■参考情報 (※1) 中小企業・SDGsビジネス支援事業: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/activities/index.html (※2) 日本開発センター: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tech_pro/japancenter/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・関係者との打合せへの同席 ・課題別・国別研修への同行			
■受入時期・期間			
2024年8月上旬から10月下旬までの 3.0カ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可		可	週3回、3.0カ月程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学院生・社会人とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoftのソフトウェア(Word, Excelなど)を使った活動経験		
望ましい	Googleフォームなどを活用したアンケート実施と取りまとめ		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点 インターン場所はJICA本部経済開発部内及び在宅勤務を予定しています。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本24
■部署名:	社会基盤部	■募集人数(人)	3
■課名:	都市・地域開発グループ		
■テーマ 開発途上国への技術協力と日本の都市・地域開発分野の経験			
■テーマの概要 本インターン生には、JICAが定める課題別事業戦略「JICAグローバル・アジェンダ」のうち当グループが推進する都市・地域開発分野に関する目標に基づいて、以下のようなテーマに関係する研究内容を当G担当者と相談の上で設定し、結果をとりまとめて報告会を行って頂きます。 1) TOD(公共交通指向型開発)と都市再開発の事業促進に係るJICA事業の事例分析と事業促進に向けた方策について 2) G空間情報分野における都市開発とG空間の利活用策にかかるJICA事業の事例分析と事業促進に向けた方策について 3) 都市開発分野の地域共生にかかる事例の分析と日本の自治体の海外協力にむけた促進策について 4) 災害対応強化のためのDX適用にかかるアイデアについて 5) 日本国内外の土地区画整理事業にかかる事例収集と比較分析について インターン生にはこれらに関係しご自身の関心があり、当Gのニーズが認められる研究テーマを主体的に設定・提案頂きます。その他、当G事業に関連した会議や研修への参加、広報強化業務やその改善提案等の活動に取組んで頂く予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 上述のとおり設定する基本テーマに基づき報告書を作成することを想定し、主な活動は以下のとおり： ・着任時ブリーフィング ・JICAの既往協力にかかる情報収集・ヒアリング・分析 ・日本及び海外の都市・地域開発事業に関する情報収集・分析 ・他ドナー(世界銀行、アジア開発銀行、UN-HABITAT等)の動向調査(都市・地域開発分野) ・報告会用のプレゼンテーション資料の作成・実施 ・報告書の作成(研究内容にかかる現状分析、課題特定、提言を含む) ・JICA内部での都市・地域開発分野に関する勉強会及び各種会議の運営に係る補助活動 ・都市・地域開発分野に関する各種研修、対外的なイベントや国際会議等への参加や記録・資料収集等の補助活動 ・都市・地域開発グループHP、Facebook、その他広報関連資料の検証・改善提案・実施			
■参考情報 都市・地域開発グループのウェブサイト(https://www.jica.go.jp/activities/issues/urban/index.html) 都市・地域開発分野のJICAグローバルアジェンダ(https://www.jica.go.jp/activities/issues/urban/ku57pq00002cu424-att/urban.pdf)			
■参加(同行)可能な行事・視察等 都市関連事業、日本国内(原則として首都圏)で実施する研修等へのオブザーバー参加が可能			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週4-5回程度の活動を想定。
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	関連する学部学科(理系:都市計画、土木、建築等。文系:地域経済学、行政学、法学等。)に在籍、または卒業している方からの応募を歓迎します。		
■提供可能な執務環境等			
□完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): 原則、期間中はJICA本部でのフルタイム活動を想定。その際は座席及び必要な執務環境を提供する。			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・業務理解及び研究活動の双方でインターン生に有意義な経験となる機会を提供したいと考えておりますが、受け身の姿勢ではなく、能動的・主体的にインターンシップ活動へ臨む意欲のある方の応募をお待ちしております。 ・本人との相談により、首都圏外の地域を訪問する途上国行政官向け研修プログラムへの同行等も検討しています。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本25
■部署名:	社会基盤部	■募集人数(人)	1
■課名:	運輸交通グループ第一チーム		
■テーマ 道路交通安全に係るJICAと国際機関及び国内関係機関との連携に係る調査研究			
■テーマの概要 経済成長に伴うモータリゼーションや運輸交通の道路インフラ整備が急速に進む中、道路交通事故が原因で死亡した人は世界で年間119万人(2021年)に達し、若年層世代(5~29歳)においては、道路交通事故が死因第1位となっている。SDGsゴール3.6では「2030年までに交通事故死傷者数を半減する」という目標を掲げており、JICAは運輸交通グローバルアジェンダ「すべての人々が安全かつ安心して移動できる社会の実現に貢献する」を立ち上げ、「道路交通安全」クラスターでは戦略的に交通事故死者数削減に取り組んでいる。具体的にはダッカ、タイ、カンボジア、ウズベキスタンにおける支援に加え、国際交通安全学会(IATSS)が実施する研究部会への参加、外部有識者を委員に招いた課題別支援委員会開催などの取り組みを実施しており、今後、国際機関・他ドナー等との連携は道路交通安全プラットフォーム構築において重要な要素となっている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 道路交通安全クラスターの取り組みの中で、今後、世界銀行やアジア開発銀行など国際機関や他ドナー、国内の自動車メーカーや学術団体等との連携を図りたいと考えている。そのため、今回のインターンシップでは以下の調査研究を行っていただく。 ①JICAの道路交通安全クラスターの取り組み状況及び方針の把握 ②国際機関や他ドナーが実施している道路交通安全に係る取組状況及び方針に係る情報収集 ③国内関係機関(民間企業、研究会、交通安全に関する協会など)が実施している道路交通安全に係る取組状況及び方針に係る情報収集 ④上記①~③を踏まえたうえで、JICAと国際機関及び国内関係機関との連携のあり方に係る提言 ⑤交通安全に関するデータ整理、分析			
■参考情報 ・JICA運輸交通グローバルアジェンダ(https://www.jica.go.jp/activities/issues/transport/index.html) ・IATSSイベント(https://www.iatss.or.jp/event/list.html)			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン期間中に実施している道路交通安全クラスターの技術協カプロジェクト及び研修事業の会議、打合せ、視察など			
■受入時期・期間			
2024年8月初旬から9月下旬までのうち 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	道路交通安全に関わる基礎知識		
望ましい	Excel、PowerPointに関する基礎的操作		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本26
■部署名:	社会基盤部	■募集人数(人)	1
■課名:	資源・エネルギーグループ第一チーム		
■テーマ カーボンニュートラルに向けたエネルギートランジションあるいは持続的な鉱物資源開発に関する調査研究			
■テーマの概要 資源・エネルギーグループは、「その国・地域にあった、カーボンニュートラルと安価なエネルギーの安定供給を両立させる」ことを目標とした取り組みを行っている。この目標に向けて、JICAは国内外の様々なパートナーと共に、①エネルギートランジション政策・計画の策定・更新・実施と、②次世代脱炭素技術の開発・社会実装、③地域共同体内でのエネルギー安定供給、④脱炭素社会に必要な鉱物資源の安定供給への協力を注力している。参考情報を参考にしつつ、インターン自らが関連するテーマを設定することとする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 設定したテーマに基づき、当部より必要な助言や文献紹介を行う。また、執務場所を提供するとともに、各種の情報提供、JICA職員や専門家等へのヒアリング機会、関連する報告会やセミナーへの参加機会などを提供する。			
■参考情報 ・https://www.jica.go.jp/activities/issues/energy_minig/index.html ・エネルギートランジションクラスター事業戦略 ・資源の絆クラスター事業戦略			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年8月初旬から9月下旬までのうち 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週1回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	エネルギー政策あるいは脱炭素技術あるいは鉱物資源に関する基本的な知識		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本27
■部署名:	国内事業部	■募集人数(人)	2
■課名:	外国人材受入支援室		
■テーマ 移住と開発、外国人材受入、多文化共生に関連する活動推進/情報取りまとめ活動			
■テーマの概要 JICAは、人間の安全保障及び質の高い成長の実現と日本及び国際経済社会の健全な発展を目指して、開発途上国の経済・社会開発に協力しています。特に近年は、外国人材受入支援・共生社会構築が、重要な国内課題として取り上げられています。人が国境を越えて移動する際には、様々な障壁があります。JICAは、日本に多くの外国人労働者を送り出しているアジアを中心とする送出国において適正な移動のための取組を、日本国内で多文化共生社会構築に資する取組を行っています。 JICAにおける取組みの柱は、①移住労働者の人権尊重、②(送出国・日本双方の)経済成長のための人材育成、③外国人材との共生社会の構築であり、これら3本の柱を土台に誰一人取り残さない日本・世界の実現に向けて取り組んでいます。国を超え、複層的に広がる奥深い「移動」を一緒に探究したいという想いのある方を募集します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 以下を主要な活動とし、幅広い活動に携わって頂きます。詳細活動内容は、選考過程/インターン決定時に応募者の関心事項を聞きつつ、決定します。 (1)調査研究活動(下記5つより関心のあるテーマを選択・組み合わせで実施) a.)日本国内・送出国における日本語教育の実態調査 b.)途上国事業の調査・整理、開発協力における移住と開発の視点の主流化 c.)「移住と開発」分野における他国(他ドナー)のODAの活用状況 (2)広報・室内庶務活動 JICAが国内事業部外国人材受入支援室及び全国15か所にある国内機関で実施している多文化共生・外国人材受入に関する事業の広報関連活動に取り組む(HPや広報関連情報の整理・作成等を想定)。その他室内関連庶務も状況に応じて行う。 (3)その他(応募者の関心に沿って実施する可能性のある内容) ・移住と開発ゼミ補佐 ・途上国での案件形成補佐 等			
■参考情報 外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策 https://www.moj.go.jp/isa/policies/coexistence/nyuukokukanri01_00140.html 責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム(JP-MIRAI)ウェブサイト https://jp-mirai.org/jp/ JICA関連情報(外国人材受入支援、調査研究) ・外国人材受入れ・多文化共生支援 事業ごとの取り組み 事業・プロジェクト - JICA https://www.jica.go.jp/activities/schemes/multicultural/index.html ・外国人材受入れ支援 JICA in Action JICA https://www.jica.go.jp/about/at_a_glance/action_FHR.html ・2030/40年の外国人との共生社会の実現に向けた取り組み調査・研究報告書 出版物 - JICA緒方研究所 https://www.jica.go.jp/jica-ri/ja/publication/booksandreports/20220331_01.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 インターン期間中に開催されるJICA関連部署やJP-MIRAIが開催するイベント等			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 2ヶ月間程度 2023年8月から10月のうち、2か月以上継続して参加できることが条件です。活動の頻度は相談可能ですが、過去のインターン生には基本的に週2~3日の活動をしていただきました。		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:	可	週2~3回、2ヶ月間程度	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	移民政策、統合政策に係る研究の経験		
望ましい	外国人材受入支援・多文化共生社会構築に係る活動・研究の経験		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本28
■部署名：	調達・派遣業務部	■募集人数（人）	1
■課名：	調達推進第二課		
■テーマ			
JICAのロジスティックスについて学んで、国際協力人材としての競争力を高めよう！国際協力事業に将来携わりたい人必見。			
■テーマの概要			
調達・派遣業務部は、JICAのロジスティックスの要として、事業部門と両輪となり、多様なパートナーとの共創を通じて人間の安全保障と質の高い成長を目指すために、物品やサービス等を調達しています。協力企業の選定や、必要な物品等の調達は、JICA事業を実施するうえで不可欠な機能であると共に、活動の成否を左右する要因ともなります。また、よりよい調達を迅速に行うために、国際機関との調達分野における連携推進も重要な要素となっています。本プログラムでは、事業の現場である、国内外における100拠点以上が担っている調達・契約業務のプロセスについて、理解を深めることが出来ます。JICA事業に携わりたい方や国際協力分野を目指す方にとって、公共調達の原則、適正な調達プロセスを理解し、事業を支えるロジスティックスを理解することは、非常に有益です。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本プログラムを通じて、以下の点を中心に、調達・派遣業務部の役割と機能に対する理解を深めていただきます。 <ul style="list-style-type: none">・ JICAの活動概要(特に国内・在外拠点)・ JICAの調達プロセス・ 国内外拠点の調達と本部の役割・ 国際機関の調達プロセス、国際機関との連携推進に係る検討 上記の理解を深めていただくために、調達・派遣業務部職員の実験の支援のもと、以下の活動を実施いただく予定です。 <ol style="list-style-type: none">1) 国内外拠点に対する調達関連業務の補助<ul style="list-style-type: none">・ 各拠点と調達実施方針の打合せ（契約書類の内容確認を含む）・ 調達関連勉強会、セミナー等開催補助2) 調達・派遣業務部の調達支援サイトにおける情報提供の見直し<ul style="list-style-type: none">・ 国内外拠点向けに、イントラネット上で発信している情報の見直し、資料やサイト構成の改善3) 国際機関の調達プロセスに関する情報収集、比較検討<ul style="list-style-type: none">・ 国際機関の調達ルールやガイドラインの情報収集・ JICAと国際機関の調達手続き及び契約資料の比較分析4) インターン結果の発表、JICAへの提言			
■参考情報			
JICA調達情報 https://www.jica.go.jp/announce/index.html 国際キャリア総合情報サイト https://partner.jica.go.jp/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none">・ 国内拠点（首都圏）における調達業務支援への同行・視察 例：東京センター、横浜センター、筑波センター等・ 入札会の立ち合い・ 国内拠点の活動（研修員受入事業や市民参加事業等）の視察			
■受入時期・期間			
2024年8月～12月での間で3か月間程度（詳細時期は要相談）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可		可	週3-4回、2-3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や公共調達に対する関心		
必須	基本的な英語の読み書き及び会話能力（TOEIC 700点相当目安）		
必須	事務処理能力（Microsoft Word, Excel, Power pointなどを用いた資料作成等、作業）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）： 机（執務スペース）			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
■備考・留意点			
JICAのキャリアを知ってもらうための機会（職員訪問等）についても、要望に応じて、可能な範囲でアレンジすることも可能です。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本29
■部署名:	評価部	■募集人数(人)	若干名
■課名:	評価企画課		
■テーマ インパクト評価(JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集の作成・更新)			
■テーマの概要 昨今、多くの援助機関や日本政府が、更なる事業効果の向上、事業の質の改善のために、エビデンス(根拠)に基づく事業実施(Evidence-Based Practice:EBP)やエビデンスに基づく政策推進(EBPM)を推進しており、その主要なツールとして、インパクト評価(IE)を重視しています。 JICAでは、保健、教育、農業をはじめとした様々な分野の事業でインパクト評価を実施するとともに、アカデミアでの発信も視野に入れた学術的研究も推進しています。 JICAは現在、新しいマネジメント方式であるJICAグローバル・アジェンダ(JGA)/クラスターを推進しており、その文脈で特に、IEやシステマティックレビュー(SR)、更にはそれらを概観できるエビデンス・ギャップ・マップ(EGM)の「利活用」(エビデンスの「つくる」「つたえる」「つかう」の特に「つたえる」「つかう」の点)を推進しています。 今回のテーマでは、JICAがJGA/クラスターを推進していく上で必要となるエビデンスの利活用のためのJGAエビデンスツール(JGAエビデンスHUB及びJGAエビデンス集)の作成・更新作業を実施するものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①IE及びSR報告書等の質的評価、収集及び活用提案(JGAエビデンスHUB(日本語)の作成・更新) JICA、他機関(3ie、J-PAL、キャンベル共同計画、コ克蘭等)が実施済のIE/SR/EGMを、JGA/クラスター単位で、評価部指定のフォーマットに沿って質的評価・収集し、リンク集を作成、活用提案を行う。対象とするセクター(JGA)はJICA HPに公開済のJGAで、特にDX、教育、資源エネルギー、社会保障、ジェンダー、気候変動、環境管理を予定。 ②国際機関、NGOが実施済のIE/SR/EGMの情報収集、文献分析(JGAエビデンス集(日本語)の作成・更新) JICA及び上記他機関等が発行済のIE/SR/EGM等についてセクター(JGA)毎に情報収集し、主要な報告書の概要及びリンク先を記載した要約を、評価部指定のフォーマットで作成する。 ①及び②の作業では、評価部職員や事業評価アドバイザー、国際協力専門員等から助言を行う。 ③その他 衛星データ活用活動、JICA事業の評価指標の確認作業、事業評価報告書における教訓の取りまとめなどをお願いする可能性もあります。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/impact.html https://www.3ieimpact.org/ https://crimrc.ryukoku.ac.jp/campbell/library/international.html https://www.cochranelibrary.com/			
■参加(同行)可能な行事・視察等 評価部勉強会等			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 3週間~2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2,3回、3週間~2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	インパクト評価		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): 執務環境(机・椅子等)			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 ・執務スペースは用意しますが、状況に応じて在宅リモートでの活動も可能です。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本30
■部署名:	評価部	■募集人数(人)	1
■課名:	事業評価第二課		
■テーマ 事業評価(教訓活用状況の整理)			
■テーマの概要 JICAの事業評価は、過去に実施した事業から得られる学びを通して事業のさらなる改善を図る(学習と改善)とともに日本国民や相手国関係者等に事業評価の結果を適時に公開すること(説明責任)を目的としている。特に、「評価による事業の改善」については、途上国の現場における多様な事業経験を通じて蓄積された教訓を活用・反映し、途上国の複雑かつ困難な開発課題の解決に向けたより効果的な事業を実施していくことが重要である。こうした認識のもと、評価部ではこれまで事業評価制度の拡充・強化を図るとともに、様々な分野課題に関する教訓を整理・分析して実用性・汎用性の高いナレッジ(知識)として取りまとめ、評価結果の事業へのフィードバックを推進している。 今回の活動は、事後評価の対象案件について、案件計画段階において過去の類似案件から教訓を活用した優良事例を抽出し、活用の背景やどのような教訓が有用であるか類型化を図る。また、これまで事後評価を実施した開発政策借款を対象としてその教訓の類型化を図り、案件形成に活用するための手引き案を作成し、更なる教訓の活用を促進することを目的としている。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①事後評価案件における教訓活用事例の抽出・整理 現在事後評価を実施中の案件から、過去の類似案件の教訓を活用している優良案件を抽出し、活用に至った背景や活用における工夫について整理を図る。活動の結果は、別途、事業評価年報の記事としてまとめることを想定している。 ②開発政策借款の事後評価における教訓整理 過去に実施した開発金融借款の事後評価における教訓を分野ごとに整理し、今後の案件形成に活用することを想定した教訓活用の手引きを作成する。 ③評価実務の実施 技術協力や資金協力の事前評価・事後評価にかかる評価実務の一部を活動として実施する。 ④インパクト評価/衛星データ分析にかかる活動 インターンが希望する場合、評価部が実施するインパクト評価/衛星データ分析にかかる実務の一部活動として実施する。			
■参考情報 ・JICA事業評価の概要 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/ku57pq000001n698-att/development_evaluation.pdf ・JICA評価年報 https://www.jica.go.jp/activities/evaluation/general_new/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 評価部内での勉強会等			
■受入時期・期間			
2024年8月から11月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		可	週2-3回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際協力に関する基礎知識		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-本31
■部署名:	青年海外協力隊事務局	■募集人数(人)	6
■課名:	国内グループ参加促進課		
■テーマ JICA海外協力隊事業における広報活動の強化			
■テーマの概要 1965年に始まったJICA海外協力隊(青年海外協力隊)はこれまで累計で56,000人以上の隊員を累計で99か国に派遣、コロナ禍以前は常時2,000人の隊員が世界70か国以上で活躍していた。現在は1400人程度まで派遣規模を回復、コロナ禍以前の派遣規模の回復に向けて広報活動の強化が求められている。2023年4月に実施された調査ではメインターゲットの応募層である20-30代の6~7割近くがJICA海外協力隊の名前を知らない、事業のイメージを全く持っていないという結果が出た。そのため青年海外協力隊事務局では2023年より、右年齢層をメインターゲットにしたInstagramやLINEを使った広報にも力を入れている。インターンには応募者視点からも、様々な広報施策へのインプットが期待されると同時にSNSを中心に発信強化に貢献し、そのために必要な広報素材の収集、製作(撮影、編集等)も行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容 JICA海外協力隊の募集広報、事業広報の一環として、特に応募者の不安払拭に向けたSNS向けの動画コンテンツの取材、編集(過去のインスタライブのアーカイブ映像からの再編集含む)を中心に活動する。具体的には、6月に実施予定の社会還元表彰式典(海外協力隊OB、OGの帰国後の活動を表彰するもの)の受賞者やグローバルプログラム(派遣前研修)に参加している隊員内定者への取材、インタビューを通してJICA海外協力隊ウェブサイトやSNSに掲載する映像素材を集め、整理、精査、編集を行う。また、各在外事務所、派遣中隊員、海外協力隊訓練所、訓練生、国内機関、グローバル実習生、帰国隊員等を対象としたInstagramグランプリやインスタライブの企画、実施、編集、投稿等を行う。動画を集める際に若者の興味喚起を引き起こすようなテーマやハッシュタグを検討し、提案する。 なお、インターンは常時2名体制を原則とし、互いにチームを組んで活動を行う予定。ただし、インターンの活動可能時期、人数やそれぞれの特技、関心などに応じて、チーム体制や活動の内容を調整することとする(1名のみもしくは3名以上で活動する可能性もあり)。			
■参考情報 JICA海外協力隊 https://www.jica.go.jp/volunteer/index.html 帰国後の日本国内への社会還元 https://www.jica.go.jp/volunteer/shakaikangen/index.html 帰国後のキャリア https://www.jica.go.jp/volunteer/people/index.html また昨年度受け入れたインターンが作成した成果品は以下のリンクから確認可能です。 https://www.jica.go.jp/volunteer/global_program/2310_3/ https://www.jica.go.jp/volunteer/global_program/2310_2/ https://www.jica.go.jp/volunteer/global_program/2310_1/ その他Instagram、X、Facebookに青年海外協力隊事務局公式アカウントがありますので、参照してください。			
■参加(同行)可能な行事・視察等 社会還元表彰された元協力隊員OVを中心とした取材。その他、社会的に活躍しているOVの取材。 グローバルプログラムに参加している訓練前の隊員候補者の取材。 訓練所プログラムの取材。			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までのうち3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由:1名あたり最大3か月という想定ですが、8月から12月までの間、常にインターンを複数名は受け入れたいと考えています。時期によっては毎日、週1回という形も調整可能です。	可	週1-3回、3ヶ月間
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	素材となる写真や動画の撮影、編集などの経験があること。その判断材料として具体的な経験(個人・所属団体等のSNSアカウントでの発信等)を記載、あるいはリンクの共有をお願いします。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点 撮影に使用するカメラ、編集用PC等最低限のものはJICA側で用意するが、使い慣れた本人所有の機材、PCの活用も可能。			

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 国内機関ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-国 01	筑波センター 総務課	2~4	国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために
2401-国 02	筑波センター 研修業務課	3~4	課題別研修「稲作技術向上（普及員）（A）」コースの活動補佐
2401-国 03	筑波センター 研修業務課	2~3	課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐
2401-国 04	東京センター 総務課	2~3	地域交流イベントの企画、実施
2401-国 05	東京センター 長期研修課	1	長期研修員の受入活動を補佐し、研修員の所属する研究室を取材、HP、Facebook等で発信する
2401-国 06	横浜センター 総務課	2	海外移住資料館の教育プログラムおよび広報・イベント活動補佐
2401-国 07	横浜センター 研修業務課	2	JICA横浜 研修運営業務 ～対外発信と改善提案～
2401-国 08	横浜センター 市民課	5	民間連携事業に係る情報発信・川崎国際環境技術展におけるJICA留学生と出展企業の交流推進
2401-国 09	北陸センター 業務課	2~3	北陸3県におけるJICA北陸との連携先調査
2401-国 10	中部センター 研修業務課	1	長期研修員（JICA留学生）受入れ支援を中心とした業務補助
2401-国 11	関西センター	8	関西における国内事業全般（総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属）
2401-国 12	中国センター 市民参加協力課	2	外国人材受入・多文化共生への関わり方の提案
2401-国 13	九州センター 市民参加協力課	1	JICA九州センター広報
2401-国 14	沖縄センター 研修業務課	1	沖縄における廃棄物管理研修の成果は研修参加国においてどのように活用されるか
2401-国 15	沖縄センター 研修業務課	1	研修への参加を通じて学ぶ中南米地域の日系社会及び沖縄の連携強化と日系社会の活性化
2401-国 16	沖縄センター 研修業務課	1	島嶼地域の地理的・自然条件下にある沖縄における道路維持管理の技術は島嶼国・沿岸国においてどのように活用されるか

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国01
■部署名:	筑波センター	■募集人数(人)	2~4
■課名:	総務課		
■テーマ 国内センター理解：国際協力キャリア形成のきっかけ作りのために			
■テーマの概要 JICAの国内センターは、開発途上国と日本の地域を結ぶ架け橋として、地域の特色を生かした国際協力を推進するとともに、地域の発展に貢献する活動を進めています。JICA筑波は、保有する農業・農村開発分野の実践的研修施設を活かしつつ、筑波研究学園都市に集積する研究・教育機関との連携を強化し、農業、防災、気候変動対策などの研修員受入事業を実施しています。また、所管する茨城県と栃木県のJICA海外協力隊、草の根技術協力、開発教育支援、中小企業・SDGsビジネス支援等の事業を実施しています。 今回のインターンでは、JICA筑波が実施する研修員受入事業、共創ハブ、開発教育支援、広報・総務等の事業を体験しつつ、各自の個別テーマ設定を行った上で、情報収集・分析、各自のアイデアの提案を行って頂きます。また、JICA筑波で勤務する職員、研修委託スタッフ、協力隊OV等多様な人材のキャリアに触れる機会を設定しますので、ご自身のキャリア検討の機会として活用いただけます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップは、JICA筑波が実施する幅広い業務の体験、個別テーマの対応、キャリア面談などを行って頂きます。詳細な活動はインターン決定後に、各自の希望を踏まえて相談しながら設定します。 具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 途上国の農業開発を担う中核人材を育成する研修の講義、圃場実習、実験への参加 2. 日本の優良事例を学ぶ、研修員の日帰り視察研修への同行 3. 農業共創ハブの関連活動の補助 4. JICA筑波への施設訪問、研修員の学校訪問などの開発教育の補助 5. 収穫祭、ちびっこ博士などの広報業務の補助、経理・契約・総務業務の補助活動 6. 個別テーマの設定、情報収集・分析、アイデア提案：例 JICA筑波広報戦略、地球ひろば化アイデア、DX化など 7. 多様な国際協力人材とのキャリア面談			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。 昨年度イベント実施例： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/1516580_23964.html ちびっこ博士等： https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/other/index.html			
■受入時期・期間			
2024年7月から10月までの 2ヶ月間/4週間以上		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：具体的な期間については各自の都合に応じて相談可能なため。		可	週3日以上
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での(できれば)圃場での実験調査および研究の経験、または行う予定のある方。		
望ましい	日常会話レベルの語学力(英語)(TOEIC550点以上)		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項)：			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、5,300円/泊(朝食付)でご利用いただけます。(要予約) 受入時期・期間は、インターンの皆様と相談の上、設定いたします。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国02
■部署名:	筑波センター	■募集人数(人)	3~4
■課名:	研修業務課		
■テーマ 課題別研修「稲作技術向上(普及員)(A)」コースの活動補佐			
■テーマの概要 多くの開発途上国において、農業セクターは、総労働人口の過半を占める就労人口を抱える主要な産業です。コメは多くの開発途上国で栽培・消費されている主要穀物の一つであり、この生産量向上を食料安全保障の課題に掲げる国も少なくありません。しかしながらとりわけアフリカでは、コメの生産面積は拡大しているものの、依然として生産性は低い数値です。また、発展途上国、農業技術普及を担当する行政組織が人的、資金的に脆弱であり、かつ普及員の能力が農家のニーズに対応しきれておらず、人材の育成が喫緊の課題となっています。このような状況から、「稲作技術向上(普及員)(A)」コースは、筑波センターで保有する農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲(ネリカ)等を中心に①稲作に関する知識・技術の向上、②農家圃場レベルのニーズに即した基礎的実証試験、③普及体制の整備拡充、④農民への普及方法の改善について、講義、実習、視察等を通じて、求められる知識と能力の向上を目指しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは「稲作技術向上(普及員)(A)」コースに参加し、JICA、研修業務委託先と協力して研修実施の補助を行って頂きます。詳細な活動はインターン決定後に設定します。 具体的な活動例は、圃場で実施する実験・試験(施肥や栽植密度、品種の比較実験)の研修員(9名アフリカ地域、1名アジア地域)に対するサポートを想定しております。 収穫及び収穫前の収量調査やサンプリング作業がメインとなります。 加えて、本コースの広報活動補助(Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事)を実施いただく可能性があります。 なお応募者の関心と上記「稲作技術向上(普及員)(A)」コースに係る業務量に応じて、当センターで実施している「農業共創ハブ」に関連する業務の補助をいただくことも可能です。 【農業共創ハブ_HP】 https://www.jica.go.jp/tsukuba/enterprise/agricul/index.html			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2024年8月26日から8月30日までを含む2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2、3回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方。		
望ましい	日常会話レベルの語学力(英語)(TOEIC550点相当)		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 研修員と同様に水田内に入り稲刈り鎌を使います。 そのために長靴(田植え長靴ではない)と手袋、作業ができる服装(帽子を含む)のご準備をお願いいたします。また圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、5,300円/泊(朝食込み)でご利用いただけます。 受入時期・期間は、インターンの方と相談の上、設定いたします。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国03
■部署名:	筑波センター	■募集人数(人)	2~3
■課名:	研修業務課		
■テーマ 課題別研修「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐			
■テーマの概要 多くの開発途上国において、農業セクターは、総労働人口の過半を占める就労人口を抱える主要な産業です。コメは多くの開発途上国で栽培・消費されている主要穀物の一つであり、この生産量向上を食料安全保障の課題に掲げる国も少なくありません。しかしながらとりわけアフリカでは、コメの生産面積は拡大しているものの、依然として生産性は低い数値です。また、開発途上国、農業技術普及を担当する行政組織が人的、資金的に脆弱であり、かつ普及員の能力が農家のニーズに対応しきれておらず、人材の育成が喫緊の課題となっています。このような状況から、「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースでは、筑波センターで保有する農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲(ネリカ)等を中心に①稲作に関する知識・技術の向上、②農家圃場レベルのニーズに即した基礎的実証試験、③普及体制の整備拡充、④農民への普及方法の改善について、講義、実習、視察等を通じて、求められる知識と能力の向上を目指しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 本インターンシップでは「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースに参加し、JICA、研修委託先と協力して研修実施の補助を行って頂きます。詳細な活動はインターン決定後に設定します。 具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 指導業務(技術指導補佐、圃場での調査補佐) 2. 個別実験(施肥や栽植密度、品種の比較実験) / 収量調査補助 3. 研修旅行計画補助 4. 月別研修カリキュラム作成補助 5. 研修計画に沿った資料作成・講義補助 6. 国際協力事業指導の現場理解(研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り等) なお応募者の関心と上記「天水稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースに係る業務量に応じて、当センターで実施している「農業共創ハブ」に関連する活動、広報活動(SNS記事作成)、その他研修業務課の活動を補助いただくことも可能です。			
■参考情報 JICA筑波農業共創ハブウェブサイト https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/activities/agricul/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。 昨年度イベント実施例: https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/information/event/1516580_23964.html			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 2ヶ月間/2~3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由: 希望に応じて10月中も相談可のため。		可	週2回、2ヶ月間/2~3週間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での(できれば)圃場での実験調査および研究の経験、または行う予定のある方。		
必須	日常会話レベルの語学力(英語)(TOEIC550点以上)		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。 JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合に限り、5,300円/泊(朝食付)でご利用いただけます。(要予約) 受入時期・期間は、インターンの皆様と相談の上、設定いたします。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国04
■部署名:	東京センター	■募集人数(人)	2~3
■課名:	総務課		
■テーマ 地域交流イベントの企画、実施			
■テーマの概要 東京センターは設立以来、JICAの国内最大規模の研修実施機関として、開発途上国の抱える様々な課題に対応するため、日本国内の関係機関の協力を得て、多種多様な研修メニューを開発途上国の方々に提供しています。また、開発途上国の多様なニーズに応じていくために、市民の皆様やNGO、自治体、大学等による国際協力活動への参加を支援し、さまざまな形で連携していくとともに、中小企業の海外展開支援など、民間企業の方々とともに開発途上国の課題解決に取り組む活動を行っています。加えて、当センターは地域の皆様に日本の国際協力やJICAの事業を知っていただく場としての役割も果たしており、これまでもスポーツイベントや音楽イベント等を通じて、地域の方々の国際理解の促進に取り組んできました。JICAの国内機関にとって地域とのつながりは非常に重要であり、今後も地域交流に注力していきたいと、イベントの企画・実施におけるインターンの方々のフレッシュなアイデアに期待しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の子どもからシニア世代を対象とした、国際協力イベントの企画、実施 2. 国際協力に関心を持つ高校生を対象とした、国際協力イベントの企画、実施 ※イベントの内容については、インターンの方からの積極的な提案を歓迎します。 3. その他、総務課で実施する活動のサポート 			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA東京ホームページ: https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/index.html ・ 過去に実施した地域交流イベントの広報記事 「西原小学校国際交流会」https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2023/1515691_14652.html 「西原町の子どもたちと研修員のゴミ拾いイベント」 https://www.jica.go.jp/domestic/tokyo/information/topics/2023/1532685_14652.html 			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターン期間中に実施する課題別研修・国別研修、研修員向け福利厚生イベント(日本文化紹介、市民との交流等)等 ・ 所管地域における拠点視察訪問(高崎分室、各県デスク)、NGO等市民参加協力事業の実施団体訪問、関連イベントへの参加等 			
■受入時期・期間			
2024年8月下旬から11月下旬までの 3ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週1~2回
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
インターンの方々の主体的な活動に期待しています。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国05
■部署名:	東京センター	■募集人数(人)	1
■課名:	長期研修課		
■テーマ 長期研修員の受入活動を補佐し、研修員の所属する研究室を取材、HP、Facebook等で発信する			
■テーマの概要 JICAでは、途上国の未来と発展を支えるリーダーとなりうる人材を日本に招いて大学院の修士課程、博士課程に留学させており、この留学生を「長期研修員」と呼んでいます。JICA長期研修員には、それぞれの研究分野での専門性を高めるとともに、欧米とは異なる特色を持つ日本の近代の開発と発展について理解を深める機会があります。日本の政府レベルでの施策だけでなく、各地方ではその地方の経済・社会の発展を目指す取り組みが絶え間なく行われてきた歴史があるため、「地域理解プログラム」にて民間企業や行政の取り組みの歴史と現在を伝えています。 インターンは、この長期研修の意義を理解し、実際の受入れ業務や、上記「地域理解プログラム」の支援をしつつ、彼らへの直接インタビューも行い、HPやFacebook等での発信記事を作成することで、長期研修員にかかる広報活動の一翼を担うことになります。英語の会話や文章作成の能力は高い方が活動は楽にすすみますが、高くはなくともせっかくなのでこの機会に挑戦したい、ご自身の能力を向上させたい、との意欲をお持ちであれば可能です。是非、挑戦してください。			
■具体的なインターンシップ活動内容 8月：秋の受入手続き補佐、優秀な研修員への取材とHP・Facebook等の記事作成 11月～12月：地域理解プログラム（長野県・諏訪、群馬県太田市等、埼玉県総合教育センター等）の事前準備・事後報告の補佐（研修員の募集・選考過程の管理、事前・事後アンケートの作成と回収、結果報告作成 他）、優秀な研修員への取材とHP・Facebook等の記事作成 （取材可能性のある大学：政策研究大学院大学、東京農業大学、東京農工大学、芝浦工業大学、東洋大学、東京大学、早稲田大学、東京医科歯科大学、順天堂大学、東京工業大学、聖路加国際大学、国際大学、新潟大学（順不同）他）			
■参考情報 同時期には1人。（時期が異なる受入れであれば都度1名で、合計3名まで可。）			
■参加(同行)可能な行事・視察等 地域理解プログラム（予定時期：長野・諏訪 11月）、 長期研修員のモニタリング同行・取材、 長期研修員の出前講座同行 他			
■受入時期・期間 2024年8月の1ヵ月程度、または11月～12月。いずれの時期も週2回程度を想定するが、集中して連日2週間、等の検討も可。詳細時期は応相談。			
上記期間内での調整可	理由：8月は秋の受入手続き補佐と研修員訪問・インタビューによる広報記事執筆。11月～12月は地域理解プログラムの準備・報告作業の補佐、研修員訪問・インタビューによる広報記事執筆。どちらの時期についても、週数日で1～2ヵ月の受入れ、あるいは2週間以上の週単位での集中的な受入れ、どちらも可能。	可	フルタイム以外の活動体系の可否 週2回程度から
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語による会話能力（流暢でなくても良いが意思疎通が確実に出来ること）		
必須	英語によるメールの執筆が出来ること（翻訳ソフトに頼っても良いが、その訳の妥当性判断が出来、自分で修正できること）		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： 机（執務スペース）			
■滞在費目安 ※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。		■宿泊費目安 2,500円/日 5,500円/泊	
■備考・留意点 地域理解プログラムの参加旅費は自己負担ですが、長野（諏訪）までバスに同乗することができます。しかし、出発が朝8時頃となることが多いため、朝の交通混雑への留意が必要です。 毎日来る前提で2～3週間の集中型で取り組みたいか、週に1～2回、但し一定程度長い期間で考えたいかについては、選考時に考慮しますので、申込時に言及していただくようお願いします。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関 ■部署名： 横浜センター ■課名： 総務課		登録番号 2401-国06
■テーマ 海外移住資料館の教育プログラムおよび広報・イベント活動補佐		■募集人数（人） 2
■テーマの概要 JICA横浜センターには海外移住資料館が併設されています。同資料館では、広く一般の方々（特に中高生等）に、日本人の海外移住の歴史、移住者とその子孫である日系人についての理解を深めてもらうことを目的とし、教育プログラムや広報活動を行っています。日本に居住する日系人の存在や活躍が知られるようになっていく今、日本の多文化共生社会の一例とも言う日系人に関する当資料館の教育プログラムは、人権・国際理解教育においても活用されています。2022年4月には開館20周年の節目を迎え、展示室を一部リニューアルし自治体、教育機関、福祉施設など、より多くの方にご活用いただくことを目指しております。本ポストでは、海外移住資料館の広報発信やイベント実施の業務補佐を想定しています。同世代の方向けのイベントや広報、またオンラインを活用した児童・生徒向けのコンテンツ作成、来館者（小中高の児童・生徒、企業等を含む一般成人等）向けの教育プログラムの提案も期待しています。		
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 海外移住資料館業務の補助活動：横浜センター併設の海外移住資料館にかかる広報活動、イベント実施、オンラインを活用したコンテンツ作成および来館者向け教育プログラムの補佐等 2. 日系社会支援に関連する研修関連活動の補助：研修同行、広報、イベント実施等		
■参考情報 横浜センターURL: https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/index.html 海外移住資料館URL: https://www.jica.go.jp/domestic/jomm/index.html		
■参加(同行)可能な行事・視察等 コーヒーフェスティバルへのブース出展（11月予定） 多文化共生、国際理解教育に関する研修、イベント等 日系社会研修への同行 他館の視察等		
■受入時期・期間 2024年8月から12月までの3ヶ月間程度(2週間からの受入も可。10,11月だと望ましい。)		
上記期間内での調整可 理由：		フルタイム以外の活動体系の可否 可 週3回、3ヶ月間
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可		
■応募資格以外に受入れに関し求める要件		
望ましい	英語 TOEIC730点以上	
望ましい	日本人の海外移住の歴史、海外・国内の日系人・日系社会に関する基礎的な知識	
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：		
■滞在費目安		■宿泊費目安
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。		
2000円/日		8000円/泊
■備考・留意点 基本的に横浜センターでの活動を想定しています。		

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国07
■部署名:	横浜センター	■募集人数(人)	2
■課名:	研修業務課		
■テーマ JICA横浜 研修運営業務 ～対外発信と改善提案～			
■テーマの概要 開発途上国の国づくりに寄与する人材を育成する目的で、JICA横浜では年間800名近くの研修員の受け入れを行い、神奈川県・山梨県内の官公庁や大学、民間団体等の協力のもと、水産、港湾、航空、国土開発、上水道、環境など多岐にわたる研修を実施しています。 本インターンシップ・プログラムでは、JICA横浜で実施する研修事業を実際の活動を通じて体感いただくとともに、参加者の視点から同事業を観察・評価いただき、その中で得られた気づきを対外発信や活動の改善につなげることを目的としています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 参加者の関心・希望をヒアリングした上で、以下から内容を決定します。 (1) 研修・イベント運営補助 インターンシップ期間中に実施される研修・イベント(オンラインも含む)の運営活動の補助を行います。 (2) 広報記事の企画・作成 インターンシップ期間中に実施される研修・イベントについて、JICA横浜のホームページおよびFacebookに掲載する広報記事の企画・作成を行います。広報のターゲットや記事の構成は、参加者自身が提案することを想定しています。 (3) JICA開発大学院連携「地域理解プログラム」の実施補助 標記における視察プログラムの企画及び実施を補助し、その結果をJICA内外へ報告します。 (4) 研修員とのネットワーク強化に向けた検討・提案 研修を修了した研修員とのネットワークを強化・活用する方策を検討し、提案します。SNSやオンラインツールの活用方法やネットワークを活用したイベントの企画などを行います。			
■参考情報 JICA横浜 研修員受入事業 https://www.jica.go.jp/yokohama/enterprise/kenshu/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 受入期間中に実施される各種研修・イベント			
■受入時期・期間			
2024年8月から10月までの 2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:業務内容に時期による制約がないため		可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	技術協力・人材育成に対する高い関心		
望ましい	Microsoft Officesやオンライン会議ツールを利用する基本的なPCスキル		
望ましい	研修員とコミュニケーションが可能なレベルの英語力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): _____			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国08
■部署名:	横浜センター	■募集人数(人)	5
■課名:	市民課		
■テーマ 民間連携事業に係る情報発信・川崎国際環境技術展におけるJICA留学生と出展企業の交流推進			
■テーマの概要 テーマ1) 持続可能な開発を実現するため、さまざまな関係者の連携が重視され、民間企業の技術やアイデアによる貢献が期待されており、開発途上で多様なビジネスチャンスが拡大していくものと考えられます。JICA横浜は、神奈川県および山梨県の企業との連携の窓口を担っています。 以上を踏まえて、企業の活動・貢献の周知を推進する、インターン参加者のアイデア溢れる発信活動の提案をお待ちしています。 テーマ2) 2024年11月中旬に予定されている川崎国際環境技術展において、JICA留学生と出展企業の情報交換・意見交換を推進する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 テーマ1) 情報発信の目的および手段・方法を提案にまとめ、了承を得られた案件は以下の段階に進む。 (以下の、1点目から3点目を、同時並行ならびに繰返して仮説検証しながら改善する) ・目的を達するため刺さる情報発信のマーケティング ・発信情報の素材収集・取材 ・さまざまな発信方法の試行とモニタリング テーマ2) JICA留学生に向けた参加案内・勧奨に係る支援、来場時の展示ブース訪問同行・意見交換案内、JICA留学生に対するフォローアップ 出展企業の事前情報収集、JICA留学生との情報交換・意見交換の支援、JICA留学生が訪問した出展企業に対するフォローアップ			
■参考情報 ・民間連携事業 https://www.jica.go.jp/priv_partner/index.html ・JICA横浜 https://www.jica.go.jp/yokohama/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・支援機関等によるセミナー等 ・2024年11月中旬 川崎国際環境技術展			
■受入時期・期間 2024年8月から12月までの 5ヶ月間の中で任意 フルタイム以外の活動体系の可否 上記期間内での調整可 理由: テーマ1・2の併願・どちらか応募可 可 週1から可、2週間以上が望ましい			
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	インターン活動の提案		
望ましい	具体的なインターン活動の提案		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		8,000円/泊	
■備考・留意点 ・テーマ2については10月から11月の短期参加可です。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国09
■部署名:	北陸センター	■募集人数(人)	2~3
■課名:	業務課		
■テーマ 北陸3県におけるJICA北陸との連携先調査			
■テーマの概要 北陸地方は途上国に近い将来抱える諸課題(少子高齢化・過疎など)を先取りしている課題先進地域と言える。また一般的に社会経済活動の基盤は、地球規模課題の深刻化により大きな影響を受けやすく、北陸地方もその例外ではない。北陸3県において地域課題・地球規模課題(SDGs等)の解決に取り組んでいる組織や個人を調査・ヒアリングし、「内外一元化」「内なる国際化」のために共創できるパートナーを探索。JICA北陸との今後の連携を検討・提案する。 想定されるテーマ例: 富山県: スマートシティ、再生可能エネルギー、スマート農業等の知見を有する組織や、外国人材との共生に取り組む組織 石川県: 里山里海(生態系保全と経済活動)、大学発スタートアップや、観光産業と地域経済 福井県: 人口減少・少子高齢化、地域コミュニティと外国人の社会経済活動への参加、再生可能エネルギー(原子力) など そのほか、各県の特長を生かした共創的な観点からのテーマ等、インターン生間、JICA北陸との相談の上でテーマ選定する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 インターンシップ活動としては、地域への理解増進、取り上げる課題の選定、候補団体の抽出、当該団体等へのコンタクト、同意を得られた団体等への訪問・ヒアリングの実施、JICAと連携した地域課題解決のモデル検討をJICA北陸スタッフと協働しつつ実施する。その調査結果を報告書に取りまとめ、JICA北陸へ提案することが期待される。なお、複数名参加の場合も、発表内容はインターン生間でひとつにとりまとめることとする。 想定されるインターンシップ活動の流れ: ①地域課題について知る ②扱いたい地域課題の選定 ③②に取り組んでいる組織の調査・ロングリストの作成 ④③からショートリストを作成し、JICAとの連携について探る ⑤インターン生間でとりまとめ、JICA北陸への提案発表			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/domestic/hokuriku/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・調査(ヒアリング)対象に抽出された団体等を適宜訪問し、ヒアリング調査を実施する。			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由: 大学の休暇期間等にあわせて実施期間変更は応相談。		可	週1、2回、2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	未知の団体関係者にコンタクトし、各種ヒアリング調査をおこなうため、対人関係において積極性を有する方が望ましい。		
望ましい	テーマ、活動計画策定等はJICA北陸スタッフのサポートのもと、インターン生主導で決定・実施するため、自ら積極的に考察・提案・活動できる方が望ましい。		
望ましい	複数名のインターン生による協働が想定されるため、チームワークによる作業を積極的にできる方が望ましい。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式 <input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国10
■部署名:	中部センター	■募集人数(人)	1
■課名:	研修業務課		
■テーマ 長期研修員(JICA留学生)受入れ支援を中心とした業務補助			
■テーマの概要 JICAは、JICA開発大学院連携プログラム(JICA-DSP)の一環として、主に日本の大学院に在籍するJICA留学生を対象に、日本の郷土史や開発経験を学ぶさまざまな「地域理解プログラム」を提供しています。地域理解プログラムは、日本各地で培われてきた地域特有の開発事例を題材とし、地域に根差した具体的な開発事例を学ぶことで、JICA留学生が日本の開発経験に対する理解を深め、その学びを母国の開発にも活かしていくことが期待されています。本プログラムでは、関連施設の視察や体験のみならず、開発事例の歴史的考察・講義、参加者間でのディスカッション・ワークショップの開催を予定しており、留学生はより実践的な知識や経験を得ることができます。JICA中部では過去に、「四日市公害」「静岡県中西部茶業」「愛知県なごやめし」等をテーマに実施しました。2024年度は「伊賀忍者」をテーマに実施予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・地域理解プログラム運営支援 今秋に計画する地域理解プログラムの企画や調整、広報業務、また当日運営や実施結果をとりまとめ、次年度計画への改善点などの提言を行います。本業務を通してJICAの国内事業への理解、および企画立案や内容調整/当日運営/評価など、一連のイベント実施の流れの体験から、業務実施に必要な企画力や調整力などを学ぶことが出来ます。			
■参考情報 JICA中部研修員受入れ事業 https://www.jica.go.jp/domestic/chubu/activities/kenshu/index.html JICA開発大学院連携/JICAチェア https://www.jica.go.jp/activities/schemes/dsp-chair/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・地域理解プログラム ・インターン実施期間中の来日研修へのオブザーバー参加 ・JICA留学生との面談 等実施時期に応じて検討			
■受入時期・期間			
2024年9月から11月までの 3ヶ月間/2~3週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由: イベント実施日(11月を予定)の前後で調整	可	週1~2回、3週間/2~3週間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	JICA留学生と英語で会話ができること(TOEIC730~800点程度)		
必須	自ら進んで業務に取り組む自主性・積極性、協調性があること		
望ましい	イベント企画・運営経験があること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
1,000(昼食目安)円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 業務上発生する交通費については別途支給いたします。PCは希望があれば貸出し可能ですが、執務室外への持ち出し禁止のため、外出先及び在宅作業用についてはご自身のPCをご用意ください。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国11
■部署名:	関西センター	■募集人数(人)	8
■課名:			
■テーマ 関西における国内事業全般(総務課、研修業務課、開発大学院連携課、市民参加協力課、企業連携課のいずれかに配属)			
■テーマの概要 JICA関西は、関西の2府4県(大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県)のJICAの拠点として、自治体、企業、大学、NPO・NGOや関西の市民の皆さんとともに国際協力事業を展開しています。開発途上国のリーダーを育成する研修員受入事業、自治体・大学・NGO/NPOなどの皆さんの知見や経験を活かす国際協力活動支援(草の根技術協力)、出前講座などの開発教育、企業のすぐれた技術やサービスを開発途上国の発展に活かす民間連携事業など、幅広い事業を実施しています。また最近の動きとして、多文化共生・外国人材受入支援や、関西SDGsプラットフォームを通じた関西でのSDGs推進の取り組みを行っています。 本インターンでは、JICA関西が行うJICA事業、そして日本でできる国際協力事業について理解することを目的とします。配属する課は、インターン学生の研究分野・興味関心と各事業の年間スケジュールを考慮の上、決定します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 途上国の行政官・研究者等を招いての日本での研修実施(短期技術研修員受入事業) ・ 途上国の将来のリーダーとなるJICA留学生受入れ、日本文化理解プログラムの実施 ・ 自治体・大学・民間企業による国際協力への参画支援 ・ 一般市民や青少年が国際協力への理解を深めるための啓発事業 ・ 大学・高校・小学校との連携による開発教育支援事業 ・ NGO 支援事業 ・ 多文化共生・外国人受入支援 ・ SDGs推進 ・ イベント開催を含む広報事業等 ※各事業詳細はJICA 関西のHPを参照のこと。			
■参考情報 JICA関西ホームページ 更新情報 https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/information/topics/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 期間中に実施するイベント(市民向け、留学生や研修員向け、在留外国人向け等)、短期技術研修への同行、開発教育の講座への同行 ・ JICA関西秋祭りの企画・運営 			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		可	週2、3回程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Officeの操作経験		
望ましい	日常会話レベルの英語能力(TOEIC600点程度)		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): 外勤時の交通費(交通系ICカード貸出)			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 週に2~3日を2か月程度参加可能な方を歓迎いたします。 ・ 具体的なインターンシップ内容は上記を想定していますが、取り組んでみたい特定の活動やテーマ等のアイデアがある場合には、応募申請書に提案を記載して下さい。また、インターン発意による企画の計画・実施も歓迎します。 ・ 空室があればJICA関西に宿泊可能です(1泊5,300円・朝ごはん付) 			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国12
■部署名:	中国センター	■募集人数(人)	2
■課名:	市民参加協力課		
■テーマ 外国人材受入・多文化共生への関わり方の提案			
■テーマの概要 JICA中国では、多くの開発途上国から留学生を受け入れている。受け入れにあたっては、留学生のみならず、その配偶者へのサポートや子供たちの教育環境への配慮が必要となるが、東広島市役所、大学、日本語教室、留学生コミュニティ、地域社会など様々な関係者との連携が不可欠となっている。JICA中国では、市民、学校で異文化や国際協力についての理解を促進するための開発教育支援事業を行っているが、留学生の家族と日本の市民との交流や相互理解の場づくりなど、既存の事業を活用しながら、取り組みを強化していく必要がある。本テーマでは、外国人材受入・多文化共生への関わり方をテーマにJICAとしての具体的な関わり方への提案をすることを狙いとする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・東広島市における外国人材受入・多文化共生関係者への課題等聞き取り、それをふまえた小規模イベントの企画・準備・実施（関係者とはJICA中国が対話を継続しており、イベントの実施日についてはインターン受入前のある程度すり合わせた上で、インターンに内容面での貢献を期待する） ・その他JICA中国の事業への参加、活動体験			
■参考情報 インターンの業務の成果としてのHP掲載記事の例 https://www.jica.go.jp/chugoku/topics/2022/i8dm0100000030gb.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 出前講座、JICA中国施設見学、市民向けイベント			
■受入時期・期間			
2024年8月中旬から9月中旬までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由:		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	自ら進んで業務に取り組む自主性、積極性があること		
必須	学生から社会人まで、多様な立場と年齢の関係者から自然な形で想いや取り組みを聞くことのできる傾聴力・質問力・コミュニケーション力		
望ましい	他のインターン、就職活動、アルバイトと重複をできるだけ避けること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2000円/日		5300円/泊	
■備考・留意点 中国センターのある東広島市西条にはホテルの数が限られることから、インターン合格後速やかに宿泊手配等を進めることを推奨します。広島市内から通う場合、車で約1時間程度と考えておいてください。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国13
■部署名:	九州センター	■募集人数(人)	1
■課名:	市民参加協力課		
■テーマ			
JICA九州センター広報			
■テーマの概要			
<p>JICA九州センターの業務は全て広報とつながっている。九州センターは研修事業（短期の課題別や長期の大学院連携）、市民参加協力（海外協力隊員の募集・広報、出身地での支援・調整、開発教育、多文化共生、NGOや行政との連携）、企業連携（企業の海外進出による開発を支援する事業）を主に実施している。左記の遂行には九州センターは様々な人と組織との繋がりにしには存在しない。この点で、広報は事業の一部としてとらえる必要があり、JICA内広報、連携相手組織内広報、広くはメディアを通じた広報等、相手を意識した発信・連携・ネットワーク構築が求められる。本インターンシップ実習では、九州センターを多角的に捉え、広報全般について現状を把握、分析し、改善または新規提案を行い、これを実施する。ウェブ関連情報発信、メディア発信、デザイン、企業・大学・市民社会との連携の仕方、開発教育を広報ととらえても良い。インターン実習生には自由な発想の下、九州センター関係者と人間関係を築きながら、できることを検討し、実行する力が求められる。JICA関係者からは普段見えていない視点からの気づきや提案を期待している。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1. JICA及び九州センターの組織目標の理解と把握。 2. 広報に関する課題分析。 3. 改善または新規提案。 4. 改善または新規提案の実行。 5. 関係者への報告・共有。</p> <p>広報には終わりがなく、また幅広いテーマであり、インターン実習生の外部から見える視点も活かしながら自由な発想と提案、実行が求められる。</p>			
■参考情報			
<p>ウェブサイト自体も課題・改善点を見つけられると期待している。 https://www.jica.go.jp/domestic/kyushu/office/</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>JICA事業を理解するために、セミナー等の様々なイベント、研修や海外協力隊関係会議への参加を奨励する。例えば以下の通り。 1. 九州センターが実施する技術協力プロジェクトの活動に同行し、現場での活動を体験する。 2. 課題別研修の講義や討論に参加し、研修員との交流を通じて異文化理解を深める。 3. 九州地域の自治体や企業等が実施する国際協力関連のイベントや活動に参加し、多様なステークホルダーとの連携を学ぶ。</p>			
■受入時期・期間			
2024年8月 から12月 までの2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由: 広報は幅広く、課題は無限にあるため。		可	週2回, 2ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	英語及び英語以外の外国語		
望ましい	デッサン力、デザイン力、Webデザイン・構築経験		
望ましい	九州の発展への関心を有すること		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項): 執務場所の提供			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
企業・組織・事業所広報に関心がある方の応募を期待しています。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国14
■部署名:	沖縄センター	■募集人数(人)	1
■課名:	研修業務課		
■テーマ 沖縄における廃棄物管理研修の成果は研修参加国においてどのように活用されるか			
■テーマの概要 沖縄センターでは課題別研修として、開発途上国、特に島嶼国における「持続可能な廃棄物管理」をテーマに、日本及び沖縄県における廃棄物管理・リサイクルの取組を学ぶ研修を実施している。沖縄県は本州から離れた「離島県」ということもあり、島嶼性・狭小性・海洋性などの制約があるなかで、持続可能な循環型社会経済推進の様々な実践を行ってきている。大洋州やカリブ海諸国などの島嶼国は、沖縄県がもつ特徴と同様の条件下で、そうした脆弱性に配慮した効果的な廃棄物管理を行う必要がある。研修を受託している一般社団法人沖縄リサイクル運動市民の会は、長年この分野課題別研修の受託しており、沖縄県内のみならず、全国の環境管理やリサイクル分野の団体との広範囲なネットワークを有しているほか、ベトナムでの草の根技術協力実施の経験も有しており、そうした知見に基づいて課題別研修の講義・実習・視察のプログラムを作成している。廃棄物管理全般についての知識と経験を得て、特に島しょ国や沿岸国における持続的な社会実現のために、環境管理分野での日本/沖縄による支援の可能性を検討する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 課題別研修「島嶼地域における持続可能な廃棄物管理」の講義・視察見学に同行する。インターンシップ参加者は、課題別研修の来日期間：2024年9月下旬～11月中旬の1.5か月に参加し、研修実施を補助しつつ、研修員の各国での課題や沖縄/日本での廃棄物管理の技術や取り組みを研修員とともに学び、各国の課題とその解決のための研修での学びを結びつけるサポートを通じ、研修受託団体が指導するアクションプラン作成の補助を行う。研修員が作成するアクションプランの分析をしつつ、日本/沖縄の支援の有効性・可能性についてレポートを作成する。			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・課題別研修の講義の聴講 ・衛生埋立(福岡方式)の模擬実習、廃棄物回収や廃棄物処理場の視察 ・廃棄物管理、リサイクル事業の民間企業の視察への同行			
■受入時期・期間			
2024年9月下旬から11月上旬までの 1ヶ月間半程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：課題別研修に同行するため		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 JICA沖縄センターの宿泊費は朝食込みで5,300円/泊。センターから徒歩5分の距離にモノレール(経塚駅)があり、そこから20分以内の都心にウィークリーマンションがあり、素泊まりで4,000円程度で宿泊可能。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国15
■部署名:	沖縄センター	■募集人数(人)	1
■課名:	研修業務課		
■テーマ 研修への参加を通じて学ぶ中南米地域の日系社会及び沖縄の連携強化と日系社会の活性化			
■テーマの概要 沖縄県の、海外移民が最初に行われたのは1899年、そこから125年が経過しようとしている。現在、中南米における日系移住地では、日系3世、4世と世代交代が進み、ルーツである「沖縄」を感じるができない世代が増えている。日系社会研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」では、中南米地域の日系社会にて活躍することが期待されている次世代のリーダー達が参加し、沖縄の歴史や文化を学びながら、自身のルーツを再確認し、各国の日系社会の活性化に向けたアクションプランを作成する。 日本有数の移民県である沖縄県としても、各国の日系社会・県系社会とのつながりを重要視しており、ルーツ調査の取り組み、次世代へのネットワーク継承に向けたプラットフォームの設置、移民関連の公文書の公開、「世界ウチナーンチュ大会」の開催など、さまざまな取り組みをしている。研修への参加や、個別インタビューなどを通じて、中南米地域と日本、沖縄の日系社会連携強化について学び、沖縄県の取り組みとJICAの研修の相乗効果や、研修に取り入れるべき項目などをレポートにまとめる。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・日系社会研修「沖縄ルーツの再認識を通して学ぶソフトパワー活用と地域活性化」への参加(10月上旬~11月上旬)。 ・おきなわ国際協力・交流フェスティバル(11月下旬予定)運営への一部参加 ・県が主催する日系社会連携関連、世界ウチナーンチュ大会関連イベントへの参加			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年10月上旬から11月上旬までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由:		不可	
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 JICA沖縄センターの宿泊費は朝食込みで5,300円/泊。センターから徒歩5分の距離にモノレール(経塚駅)があり、そこから20分以内の都心にウィークリーマンションがあり、素泊まりで4,000円程度で宿泊可能。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方におすすめ》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2401-国16
■部署名:	沖縄センター	■募集人数(人)	1
■課名:	研修業務課		
■テーマ 島嶼地域の地理的・自然条件下にある沖縄における道路維持管理の技術は島嶼国・沿岸国においてどのように活用されうるか			
■テーマの概要 沖縄センターでは課題別研修として、開発途上国、特に島嶼国・沿岸国における「道路維持管理」をテーマに、日本及び沖縄県における取組を学ぶ研修を実施している。塩害対策や島嶼国特有の防災対策の観点から、塩害対策・赤土流出対策や、観光業を柱とする経済的観点から景観対策に基づく、道路設計・維持管理のノウハウを有しており、同様の課題を有する島嶼国や沿岸国の道路・橋梁の設計および維持管理の研修事業を行う優位性がある。 研修を受託している公益財団法人沖縄県建設技術センター2023年度から研修を受託することになったが、沖縄県の建設関連分野の行政官・民間企業の人材育成を長年担当しており、豊富な経験と広範囲なネットワークを有している。 インターンシッププログラムに参加するものは、研修実施の支援を行いつつ、島しょ国や沿岸国における道路・橋梁を中心とした日本/沖縄によるインフラ支援の可能性、およびそうした技術を有する民間企業の海外展開可能性について検討する。			
■具体的なインターンシップ活動内容 課題別研修「道路維持管理C」の講義・視察見学に同行する。 インターンシップ参加者は、課題別研修の来日期間：2024年10月下旬～11月下旬の約5週間に参加し、研修実施を補助しつつ、研修員の各国での課題や沖縄/日本での廃棄物管理の技術や取り組みを研修員とともに学び、各国の課題とその解決のための研修での学びを結びつけるサポートを通じ、研修受託団体が指導するアクションプラン作成の補助を行う。 研修員が作成するアクションプランの分析をすることで、沖縄が有するインフラ設計・維持管理のノウハウの有効性・可能性について検討し、合わせて、そうした技術を有する民間企業の海外展開の支援可能性についても分析を加えてレポートを作成する。			
■参考情報 大学院生の場合、自身の所属する大学にJICA長期留学プログラム（道路アセットマネジメント）の留学生在籍している場合には、チューター役として同留學生を支援することが期待される。			
■参加(同行)可能な行事・視察等 ・課題別研修の講義の聴講、および一部の視察・見学プログラムへの参加			
■受入時期・期間			
2024年10月下旬から11月下旬までの 5週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：課題別研修に同行するため		可	調整可であるが、日程の半分以上の参加が望ましい。
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人) 大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	道路・橋梁分野で大学院で研究を行っている。		
望ましい	建設関連の民間企業（コンサルタントを含む）で技術分野の業務についている。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他(提供可能な事項):			
■滞在費目安		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点 JICA沖縄センターの宿泊費は朝食込みで5,300円/泊。センターから徒歩5分の距離にモノレール（経塚駅）があり、そこから20分以内の都心にウィークリマンションがあり、素泊まりで4,000円程度で宿泊可能。			

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 在外ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-在 01	マレーシア事務所	2	応募者提案による（自由研究テーマの調査・分析または広報戦略の検討・広報活動の実施）
2401-在 02	バヌアツ支所	1	JICAバヌアツ支所における各種事業の実施支援
2401-在 03	キルギス事務所	1	JICAキルギス共和国事務所の広報活動の強化
2401-在 04	ドミニカ共和国事務所	1	新規事業「Artist in Project」及び「環境KIDS Expert」に係る実施支援
2401-在 05	ドミニカ共和国事務所	1	ドミニカ共和国における海外協力隊事業に関する対外発信の強化
2401-在 06	メキシコ事務所	1	JICAメキシコ事務所における対外発信・広報活動の強化及び総務・企画活動の補助
2401-在 07	ニカラグア事務所	1	首都マナグア湖の水質改善のためJICAニカラグア事務所が取り組む環境教育、環境保護活動及びこれら活動に関連する広報活動。
2401-在 08	ボリビア事務所	1	JICAボリビア事務所における各種事業の実施支援
2401-在 09	エクアドル事務所	1	エクアドル事務所の広報・研修活動
2401-在 10	ペルー事務所	1	ペルー文化遺産の保全・活用を通じた持続可能な観光開発（サブタスク：北部地域観光開発と関連情報の整備と発信）
2401-在 11	タンザニア事務所	1	「スポーツと開発」の可能性を探る～「レディース・ファースト」の実施支援と今後の展望を見据えて～
2401-在 12	カメルーン事務所	2	「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」（農業）における事業運営補佐
2401-在 13	ルワンダ事務所	1	JICALルワンダの広報/ブランディング戦略の策定・デザイン・実行、および事務所オペレーション効率化支援
2401-在 14	ヨルダン事務所	1	社会的脆弱層に配慮したインフラ開発
2401-在 15	エジプト事務所	1	エジプト事務所における総務活動・研修関連活動

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在01
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	東南アジア	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	マレーシア事務所		
■テーマ 応募者提案による（自由研究テーマの調査・分析または広報戦略の検討・広報活動の実施）			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 マレーシアは、経済成長が進行し高所得国入りに近づいてきている。このような経済状況を反映し、JICAの協力内容及びマレーシア事務所の実施体制も規模が縮小しており、そのような状況下においてJICAのプレゼンス確保、JICA協力の成果最大化が求められている。現在実施中の事業に関しては、円借款のような大規模案件はなく、技術協力プロジェクトの他日本での研修や国際共同研究（SATREPS）、第三国研修、協力隊派遣など比較的小規模な案件が中心となり、環境分野や高等教育分野等への協力を主に実施している。インターン実習生には、これら背景（具体的な情報は「参考情報」を参照）を踏まえつつ、実施したい活動をテーマとして設定してもらいたい。 事務所の考えるテーマ例としては以下のとおり。 ・応募者提案型の自由研究テーマ（高等教育、職業訓練、環境、防災、スポーツから1つ）に関する調査分析 ・広報戦略の検討・広報活動の実施			
■具体的なインターンシップ活動内容 上記したテーマに基づいた活動に加え、以下を対応いただく予定。 ・外部訪問者に対するJICA事業についての説明（開発教育の実施） ・プロジェクトサイトや協力隊活動の視察 ・広報記事の作成 ・会議議事録の作成など、実務体験			
■参考情報 ・国別開発協力方針（マレーシア） https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000072250.pdf ・JICAウェブサイト（マレーシア） https://www.jica.go.jp/overseas/malaysia/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 インターン実習生の興味・関心も踏まえつつ、視察先を調整。			
■受入時期・期間 2024年8月から9月までの 2ヶ月間程度 上記期間外含めて調整可 理由：インターン実習生の希望に合わせ、ある程度柔軟に調整可能。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語で情報収集できる程度の基礎的な英語力を有すること（目安：TOEIC730点以上）		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2000円/日		8000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 無し。推奨される予防接種については、厚生労働省検疫所ウェブサイトを参照。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：クアラルンプール（治安上大きな問題無し）			
■備考・留意点 宿泊費は、1か月単位で予約すれば大幅な割引を受けられる宿泊場所もあります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在02
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	大洋州	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	バヌアツ支所		
■テーマ JICAバヌアツ支所における各種事業の実施支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 大洋州地域は気候変動対策やFOIP、日豪連携等、様々な国際的な取り組みが進められており、注目されている地域である。バヌアツ支所は、大洋州のメラネシア地域にあるJICAの在外拠点の一つであり、2024年度は、現在4件の技プロ（科学技術等含む）、2件の無償案件、2件の専門家派遣、本邦研修事業、協力隊事業等を実施中または予定である。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ JICAバヌアツ支所で実施中の各案件（技プロ、無償、研修、ボランティア他）の実施にあたり、バヌアツ政府側との調整に必要な各種書類作成、関係者との協議への同席及び会議議事録作成、現場視察への同行等 ・ 派遣中の協力隊員の活動や各種事業実施に関する広報記事作成 ・ ドナー会議への同席及び議事録作成、バヌアツ国内の他ドナーの協力動向分析 他			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/vanuatu/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 技プロ等における相手国政府との打ち合わせ、研修員の帰国報告会、ドナー会議、プロジェクト実施場所他			
■受入時期・期間 2024年8月から9月までの 1ヶ月間程度 上記期間外含めて調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	国際協力関係の学科在席		
望ましい	TOEIC700点程度の英会話力		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
4,000円/日		9,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 推奨：A型肝炎、B型肝炎、腸チフス			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 治安状況は安定。日本から来る場合はフィジー経由、日本への帰国はニューカレドニア経由を推奨。			
■備考・留意点 国際線の運航が不安定な時期があるため、万が一の帰国遅延等にも対応できる方のみ、受け入れ可能。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在03
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 東・中央アジア	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	キルギス事務所		
■テーマ JICAキルギス共和国事務所の広報活動の強化			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 キルギスは1991年の独立後、中央アジア諸国の中でもいち早く民主化、市場経済化を推進しましたが、金以外の有力産品の不在や投資環境の未整備等により、十分な外口投資を誘致できなかったことから安定した経済成長の軌道に乗れず経済は停滞しています。JICAは、市場経済化に基づく経済成長を通じた貧困削減促進を支援の目標とし、経済成長のための基盤整備として主に運輸インフラ整備、農業・農村開発、市場経済化に資する人材育成の分野で協力を実施しています。JICAキルギス共和国事務所では、兼轄するカザフスタン共和国の事業も含めて、JICAの取り組みやその成果をキルギス共和国・カザフスタン共和国の事業関係者から一般の方々まで、幅広く認知してもらい、日本、日本のODAに関心をもってもらうことを目的に、Face Bookを中心とした媒体で広報活動を行っており、本活動は当広報活動を支援することを目的に実施するものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 広報記事の作成：①文献調査、JICA関係者へのインタビュー等を通じて、これまでの対象国（キルギス・カザフスタン）のJICA事業を理解し、対象国の国民にJICAの取組の認知度向上、JICAキルギス共和国事務所が運営するFaceBookへの掲載を目的とした広報記事の素材・トピックを20個程度リストアップする。②上記リストの中で応募者の関心の強い素材を2～3程度選定し、広報記事の作成スケジュールを作成（どのようなコンテンツを、どこで、どのように入手するか。約2箇所の視察を想定）、事業サイトでの取材・撮影等の準備（質問票の作成など）を行い、それを実施する。③上記を踏まえて広報記事を作成する。 2. 広報強化のための今後の取り組み案の整理 ①上記1-①で作成した広報素材のリストについて、広報記事作成時の記事作成の観点や、広報のポイントを簡潔に整理する ・ JICAキルギス共和国事務所が運営するFace Bookの過去の投稿について、アクセス数と広報記事の特性の関連性を分析し、アクセス数の多い投稿記事の特性を整理する。②今後、広報強化を図るための取組や現行の広報運営における改善点を提案する。			
■参考情報 キルギス共和国における取組； https://www.jica.go.jp/overseas/kyrgyz/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 JICAキルギス共和国事務所、またはキルギス共和国でJICAが実施しているプロジェクト等が主催するセミナー・イベント等。関心の強いプロジェクトがあれば、プロジェクト側の都合も考慮して、プロジェクトサイト等への視察等も調整が可能な範囲で対応する。			
■受入時期・期間 2024年8月から10月までの間で 1ヶ月間程度 上記期間外含めて調整可			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	十分なコミュニケーション能力（英語またはロシア語）		
望ましい	SNSの取り扱いに慣れている、または、個人の活動も含めSNSを利用・運用した経験がある。		
望ましい	我が国のODA事業の概要に係る理解		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,500円/日		12,000円/泊	
■渡航に当たり必須となる予防接種 厚生労働省が推奨する予防接種。必須の予防接種はない。 https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所はビシュケク市、勤務場所はJICAキルギス共和国事務所、渡航にかかる標準経路は、東京⇄イスタンブール/ドバイ⇄キルギス 現地治安状況の参考（外務省 危険情報）： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionsbothazardinfo_265.html			
■備考・留意点 ・JICA職員随行のもと、地方への出張が1～2回実施される可能性があります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在04
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒	中南米地域	■募集人数（人） 1
■部署名/事務所名	ドミニカ共和国事務所		
■テーマ 新規事業「Artist in Project」及び「環境KIDS Expert」に係る実施支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 2023年に開始された新規事業「Artist in Project」はミュージシャン、舞踊家、モデル、映画監督、フレグランスデザイナー等の国内外のアーティストと連携し、国際協力の共感力を高め、新たな価値を共創する事業としてドミニカ共和国を中心に事業を展開している。また同年開始された新規事業「環境KIDS Expert」は、こども世代の発想力、共感力、発信力を活用し、開発途上国の環境・気候変動対策分野における開発課題へのソリューションを考える事業であり、日本国内及びドミニカ共和国において活動を行っている。 詳細は以下を確認のこと。 https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/aip.html https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/information/press/2023/_icsFiles/afieldfile/2023/12/28/231228PR_1.pdf https://digitalpr.jp/r/81943			
■具体的なインターンシップ活動内容 Artist in Project ・サブプロジェクト「AgriCoolTure」におけるファッション制作、映画制作、フレグランスデザイン等の支援 ・サブプロジェクト「VamoChequeo」におけるファッション制作、保健施設デザイン等の支援 ・サブプロジェクト「世界Bon Bon」における平和の演舞・楽曲制作・広報支援 環境KIDS Expert ・ドミニカ共和国における環境KIDS Expert活動（教育機関におけるワークショップ）及びオープンイノベーションイベント開催支援			
■参考情報 公開情報（■テーマ（プロジェクトなど）の概要と重複） https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/aip.html https://www.jica.go.jp/domestic/yokohama/information/press/2023/_icsFiles/afieldfile/2023/12/28/231228PR_1.pdf https://digitalpr.jp/r/81943 ※その他の情報が必要な場合はドミニカ共和国事務所代表アドレス <dn_oso_rep@jica.go.jp>へお問い合わせください。			
Artist in Project ・各種現地（地方）サイト出張への同行（複数回を予定） ・成果品完成時には供与式などへの同行も可能 ・その他アートに関する各種イベント等への参加・同行 環境KIDS Expert ・学校で行うワークショップ（複数回を予定） ・オープンイノベーションイベント ※いずれも渡航時期によって参加可能な行事等は変わります。			
■受入時期・期間（調整可か不可かをプルダウンで選択してください。） 2024年7月～12月の期間の間の各2か月程度 上記期間内での調整可 理由：上記期間内であれば、受入期間の短縮の調整は可能。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。） 望ましい スペイン語の能力を有することが望ましい。			
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。） <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急連絡用携帯電話貸与（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
4000円/日		8000円/泊	
■渡航に当たり必須となる予防接種 日本から入国する際に求められる予防接種は無いものの、以下の予防接種を推奨。 成人：A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、麻しん風しん、水痘、破傷風、腸チフス、インフルエンザ・新型コロナのうち医師が必要とするもの。			
■滞在場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・主にプロジェクトサイトが位置するサンフランシスコ・デ・マコリス市（東北地方）、及びJICAドミニカ共和国事務所がある首都サントドミンゴが活動拠点となります。 ・外務省危険レベルは1（十分注意してください）。中南米の中では比較的治安は良いと言われていますが、特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。日没後・日の出前の徒歩による外出は禁止です。 ・ドミニカ共和国への渡航にかかる標準経路は、米国（アトランタ、マイアミ、ニューヨーク）、またはメキシコ経由となります。 ・サントドミンゴ空港を22:00～5:00の間に離発着する便は、安全上の理由から避けることが望ましいです。			
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在05
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ドミニカ共和国事務所		
■テーマ			
ドミニカ共和国における海外協力隊事業に関する対外発信の強化			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要			
ドミニカ共和国へのボランティア派遣は1985年3月12日に始まり、これまでに累計で1,000名を超えるJICA海外協力隊員がドミニカ共和国に派遣されています。本インターンシップでは、JICAドミニカ共和国事務所での海外協力隊関連業務の補佐を行っていただくとともに、教育・保健・地域開発などの分野で活躍してきた海外協力隊員による日々の活動を積極的に国内外へ対外発信していただきたいと考えております。特に2025年はドミニカ共和国へのJICA海外協力隊派遣40周年という節目の年となるため、そのような中で広報活動の更なる強化に向けて、自由かつ柔軟な発想でのご活躍を期待しております。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
1. JICAドミニカ共和国事務所における海外協力隊関連業務の補助（JICA海外協力隊員の活動現場の視察や広報素材の作成を含む）。 2. JICA内関係部署（海外協力隊事務局など）や、必要に応じ在ドミニカ共和国日本国大使館やドミニカ共和国関係省庁等への取材。 *その他：インターン活動の終了時に、活動内容についてドミニカ共和国事務所内で発表する機会を設けます。			
■参考情報			
1. JICA海外協力隊： https://www.jica.go.jp/volunteer/ 2. JICAドミニカ共和国事務所HP（JICA海外協力隊の活動報告）： https://www.jica.go.jp/Resource/dominicanrep/office/others/volunteer/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
海外協力隊員の活動先、新着隊員の着任式（受入時期が8月となる場合）、派遣中隊員による中間報告会・最終報告会など			
■受入時期・期間（調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2024年8月頃（最大1.5-2ヶ月間）／受入時期の変動については要相談			
上記期間内での調整可	理由：隊員の着任時期など、インターンの受入時期によって活動に変更が生じる可能性あり。		
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
望ましい	基礎的なスペイン語が理解できること。		
望ましい	広報・SNS関連のインターン、部活・サークルでの活動経験		
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 緊急連絡用携帯電話貸与（必須）	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
4,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種			
・日本から入国する際に求められる予防接種は無いものの、以下の予防接種を推奨します（成人：A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、麻しん風しん、水痘、破傷風、腸チフス、インフルエンザ、新型コロナのうち医師が必要とするもの）。			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路			
・主にドミニカ共和国事務所がある首都サントドミンゴが活動拠点となります。 ・外務省危険レベルは1（十分注意してください）。中南米の中では比較的治安は良いと言われていますが、特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。日没後・日の出前の徒歩による外出は禁止です。			
■備考・留意点			
・ドミニカ共和国への渡航にかかる標準経路は、米国（アトランタ、マイアミ、ニューヨーク）、またはメキシコ経由となります。 ・サントドミンゴ空港を22:00-5:00の間に離発着する便は、安全上の理由から避けることが望ましいです。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在06
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	メキシコ事務所		
■テーマ JICAメキシコ事務所における対外発信・広報活動の強化及び総務・企画活動の補助			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 メキシコは、400年を超える日本との交流の歴史を背景に、国際協力事業も発展を遂げてきました。1971年に開始された二国間交換留学・研修制度「日墨交流計画」を皮切りに、技術協力、無償資金協力、有償資金協力（海外投融資含）、協力隊派遣等様々な手法を組み合わせた協力を展開し、環境、水資源、防災、産業開発、資源・エネルギー、保健医療などの分野で人づくり、組織づくりを軸とした取り組みを続けてきました。またメキシコには自動車企業をはじめとした1,300社を超える日本企業が進出しており、日本が有する高い技術を活用した民間連携事業にも力を入れております。2023年には、日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画50周年、JICA海外協力隊派遣30周年を迎え、益々交流を深めています。本インターンシッププログラムでは両国間の関係をより強くするべく、事業サイトを取材・撮影していただきつつ、主にJICAホームページやfacebook等を通じた対外発信、広報活動いただくこと、また適性を見つつ、事務所内の総務及び企画活動（DXなどを用いた事務所内業務の効率化等）にも携わっていただく予定です。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ①メキシコ国内で活動する海外協力隊の活動視察、各種協力事業プロジェクトサイトの視察、日系企業及び日系団体・その他民間企業訪問、広報素材の入手、JICAウェブサイト等に公開される記事の作成・アップロード ②メキシコ国内で実施中の各種事業を纏めたプロジェクトマップの作成、JICAウェブサイト等に公開 ③事務所内の業務効率化に関するアイデア出し、意見交換等 インターン活動の終了時に、活動内容についてメキシコ事務所内で発表する機会を設けます。			
■参考情報 JICAメキシコ事務所HP： https://www.jica.go.jp/overseas/mexico/index.html JICA中南米PLAZA： https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/index.html ODA見える化サイト（メキシコで実施されたJICA事業）： https://www2.jica.go.jp/ja/oda/index.php?area1=%E4%B8%AD%E5%8D%97%E7%B1%B3&country1=%E3%83%A1%E3%82%AD%E3%82%B7%E3%82%B3&search=%E6%A4%9C%E7%B4%A2&p=1			
■参加（同行）可能な行事・視察等 海外協力隊が派遣されている各種活動先、実施中及び終了後案件のプロジェクトサイト、メキシコシティ及びその他都市で開催される日系団体主催イベント（例：10-11月に開催される秋まつり等）			
■受入時期・期間 2024年10月から12月までの 3ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：活動内容に時期による制約が無いため			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 基礎的なスペイン語が理解できること 望ましい 中南米地域（特にメキシコ）の政治・経済・社会・文化状況に係る関心及び理解			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000/日		9,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 入国に際し接種が義務づけられた予防接種はありません。破傷風、A型肝炎、B型肝炎、腸チフスのワクチン接種は任意で推奨しておりますが、必須ではありません。狂犬病に対する予防接種（暴露前接種）は、通常の旅行であれば必要ありませんが、長期滞在者や野外活動を予定している人、動物と接触する機会が多い人には接種を推奨しています。			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・JICAメキシコ事務所が位置するメキシコシティが活動拠点となります。 ・外務省危険レベルは1（十分注意してください）です。特に一般犯罪、交通安全には十分注意が必要です。また、日没後（18時頃）～21時の間の外出は極力控え（徒歩移動は原則禁止）、夜間から日の出前（21時～7時頃）の外出は禁止となります（帰赴任時も同様）。			
■備考・留意点 上記以外の留意点特になし。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在07
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ニカラグア事務所		
■テーマ 首都マナグア湖の水質改善のためJICAニカラグア事務所が取り組む環境教育、環境保護活動及びこれら活動に関連する広報活動。			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAニカラグア事務所が2024年度より推進する首都マナグア湖の水質改善の取り組み（BIWAKOタスクフォース）に関わり、マナグア市役所と連携して市内の小学校生徒等に対する環境教育活動に関わるとともに、ゴミポイ捨てを撲滅するための広報を通じた啓発活動、さらには連携関係を有する滋賀県関係者（滋賀県内の学生を含む）との連携活動強化や両国間学生の交流推進に携わる。			
■具体的なインターンシップ活動内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ JICAニカラグア事務所BIWAKOタスクフォース（以下BTF）メンバーからのBTFの活動概要聞き取り ・ マナグア湖及び周辺施設の現場視察 ・ ニカラグア版UMINOKO（小学生に対する乗船型環境教育）視察 ・ BTF及びマナグア市庁関係者（海外協力隊「環境教育」隊員含む）とのゴミポイ捨て撲滅のための啓発キャンペーン企画・実施 ・ 滋賀県関係者との交流企画・実施 ・ マナグア市内小学校生徒他に対する環境教育活動の企画・実施 ・ JICAニカラグアFACEBOOKを通じた広報活動 ・ その他マナグア湖浄化に関連する諸活動の実施支援 			
■参考情報 湖の保全 紙芝居で発信 彦根東高の生徒が中米ニカラグアと交流：朝日新聞デジタル（asahi.com） https://www.asahi.com/articles/ASS396X5SS39PTJB001.html 琵琶湖で環境学ぶ船「うみのこ」 ニカラグアの汚れた湖でも始まった：朝日新聞デジタル（asahi.com） https://www.asahi.com/articles/ASS385CM7S2LPTJB00W.html 第3回ニカラグア版UMINOKOへ、日本人絵画アーティストFloさん参加 https://www.jica.go.jp/overseas/america/plaza/202311.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 上記「具体的なインターンシップ活動内容」参照			
■受入時期・期間 2024年10月から12月までの 3ヶ月間程度（一般旅券による渡航は無査証で最大90日以内の滞在が認められる） 上記期間外含めて調整可 理由：ニカラグア版UMINOKOの実施予定時期が上記時期であるため			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	日常会話レベルのスペイン語能力		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 必須となる予防接種は無いが、推奨として「A型肝炎・B型肝炎・狂犬病・麻しん風疹・破傷風」。なお、パナマや南米ペルーなど黄熱病流行国に24時間以上滞在后6日以内にニカラグアに入国する場合、10日以上前に接種した黄熱病予防接種証明書の提示が必要となる。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 安全措置として、全土で22～06時の間の外出は禁止。首都マナグア市は交通事故が頻発しており注意が必要。移動は推奨ホテル～JICA事務所間の徒歩は認めるが、その他公共交通機関での移動はラジオタクシーもしくはアプリタクシーのみ可能。渡航は米国乃至メキシコ経由。			
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在08
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ボリビア事務所		
■テーマ JICAボリビア事務所における各種事業の実施支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICAボリビア事務所では、農業・農村開発、保健・医療、環境管理などの分野で協力を行っている。現在、技術協力プロジェクト、有償資金協力、研修事業、海外協力隊事業、日系社会支援等を実施中である。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ●JICAボリビア事務所で開催中の各案件（技術協力プロジェクト、有償資金協力、研修事業、海外協力隊事業、日系社会支援他）の実施にあたり、ボリビア政府側との調整に必要な各種書類作成、関係者との協議への同席及び会議議事録作成、現場視察への同行等。 ●派遣中の協力隊員の活動や各種事業実施に関する広報記事作成。 ●ドナー会議への同席及び議事録作成、ボリビア国内の他ドナーの協力動向分析。 ●日系社会が行う文化的イベントに参加・協力 他。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/bolivia/index.html https://www.facebook.com/JICABoliviaOficial/			
■参加（同行）可能な行事・視察等 プロジェクトや海外協力隊の現地活動。日系社会が実施する文化的行事。			
■受入時期・期間 2024年8月から11月までの 1ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：12月はクリスマス時期となり参加できる活動が少ない。査証取得の関係で30日未満の受入を希望。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	スペイン語（自立して生活可能レベル）		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： 当事務所ではインターンへの携帯電話の貸与は行っていない。自身の携帯を用い、SIMカードを購入してもらう。			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		2,000円（ホームステイの場合）～6,000円（ホテル泊の場合）程度/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 黄熱病、狂犬病、破傷風、A型肝炎、B型肝炎（いずれも推奨）			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在を予定している地域：ラパス県、サンタクルス県、コチャバンバ県 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_262.html#ad-image-0			
■備考・留意点 ●JICA事務所のあるラパス県に滞在していただく可能性があります。ラパスは標高3,500メートル以上の高地ですので、高山病のリスクがあります。また、サンタクルスは熱帯気候で暑く、ラパスは高地のため朝晩は冷え込むため、衣類については夏・冬両方に備えたものを持参することをお勧めします。 ●2024年3月に約10数年ぶりの国勢調査が予定されており、その結果が2024年8月以降に発表されます。結果次第では治安の悪化も予想され、治安状況次第ではインターンの受入ができなくなる可能性もあることご了承ください。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在09
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	エクアドル事務所		
■テーマ エクアドル事務所の広報・研修活動			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 【広報業務】 主にエクアドル国内でのエクアドル事務所やその活動の認知度向上を目的とした広報活動。 ウェブサイトを始めとしたエクアドル事務所の広報媒体の現状を把握し、効果的な広報を企画、提案、運用する。 【研修業務】 過去2400人以上の研修生を派遣している研修事業において、研修員派遣前プロセスの改善提案や、帰国研修員のモニタリング、事後活動のグットプラクティス類型化を行う。なお、広報活動との連携も期待される。			
■具体的なインターンシップ活動内容 【広報活動】 ・エクアドル事務所の広報媒体（ウェブサイト、Facebook）の機能性を確認し、問題点や課題についてリスト化する。 ・エクアドル国内で活動している類似機関等の広報媒体から、効果的な広報について情報収集を行う。 ・上記を踏まえ、より効果的な広報に向けた企画、提案、運用を行う。 【研修活動】 ・研修事業参加前の研修員に対するインプットやプロセスの分析をとおし、研修事業プロセスの改善提案を行う。 ・帰国研修員へのヒアリングやモニタリングをとおし、事後活動のモニタリングやグットプラクティスの類型化を行う。 ・上記の活動をとおした、研修事業の広報活動を行う。			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/ecuador/office/index.html https://www.facebook.com/jicaecuador/?locale=ja_JP			
■参加（同行）可能な行事・視察等 滞在中にミッションなどあれば同行検討可能			
■受入時期・期間 2024年9月から12月までの 3ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	ウェブサイトの分析や簡単なインタビューができるスペイン語能力（DELE B1以上推奨）		
望ましい	広報に関する知見・経験		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2250円 (USD15) /日		8100円 (USD54) /泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 日本からの渡航時に義務づけられている予防接種は特になし。 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/cs_ame/ecuador.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 2024年1月に非常事態宣言が発令されており、事務所が位置する首都キト市では2024年3月11日現在、4月上旬までの深夜の外出禁止令が出されているが、大きな治安の悪化は確認されていない。 日本（羽田・成田）からの渡航はヒューストン経由が効率的（最短で片道約21時間）。			
■備考・留意点 事務所が位置する首都キト市は標高2850mあり、高山病にかかる人もいるため留意が必要。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

■受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在10
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	中南米地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ペルー事務所		
■テーマ ペルー文化遺産の保全・活用を通じた持続可能な観光開発（サブタスク：北部地域観光開発と関連情報の整備と発信）			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 ペルーの観光開発は地方格差を是正する主要セクターの一つである。JICAはこれまで開発調査「全国観光開発マスタープラン」を通じて観光開発マスタープランの策定に協力した。また、この成果を踏まえ、現在、北部アマソナス州にて、技術協力「ウトゥクバンバ渓谷上流地域における文化的景観を活用した持続的開発促進プロジェクト（～2025年2月）」及び円借款「アマソナス州地域開発事業（～2025年3月）」を実施中。技術協力では、対象サイトにおいて約1,500年に亘り受け継がれてきた自然や文化、生活様式を観光資源として活用し、同エリア全体を「屋根のない博物館（エコ・ミュージアム）」と見立て、地域住民が主体となる観光商品開発を推進。一方、円借款では開発されていない観光資源（遺跡や洞窟等）のアクセス道路の整備、廃棄物処分場の建設などを実施している。同州において、文化遺産の保全と観光産業の振興を両立する新たな開発モデルの構築が進められ、一定の成果が得られているところ、同開発モデルをペルーの他地域、特に北部地域に展開することが次の狙いとなっている。本インターンシップは、この次期開発フェーズに携わることを予定。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ※以下内容は採用者の経歴に応じて調整します。 (1) 事前予習 日本政府、JICAの観光セクター開発に係る特徴を把握する。また、UNWTOや他ドナー等の関連取り組みについても確認する。また本邦滞在中に経済開発部/中南米部との面談、ヒアリングを行う。その中で自身のペルーにおける研究テーマを具体化・仮決めし、ペルー事務所とミーティングを行った上で、ペループログラムでのスコープの絞り込みを行う。 (2) ペループログラム ①技術協力JCCや、円借款事業の四半期会合、JICAチェア等、オンゴーイング案件監理及び定期会合の準備補佐・参加を行う。 ②ペルー北部観光基礎調査の最終成果品を踏まえたフォローアップの内、自身が設定する研究テーマに関係する内容に関し、出張を含め情報収集・会議・分析・レポーティングを行う。 ③協力準備調査の実施に向け、必要なドキュメンテーションを行う。（協力準備調査実施中の場合は当該調査団に対して研究テーマについての意見交換を行う） ④日本・ペルー両国における広報展開を計画し、一部実践する。 (3) 事後フォロー 本邦関係部へ活動報告を行う。			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等 実施中技術協力・円借款、JICAチェア等への参加・同行が可能。また、新規プロジェクト候補サイトへの視察も可能。			
■受入時期・期間 2024年度内 最大3か月程度（受入れ次期は調整可能、ただし年度末は避けること） 上記期間内での調整可 理由：3か月以上の滞在を希望する場合は査証の関係から要調整			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 開発協力に係る学部・専攻や業界に従事していること。 望ましい スペイン語学習経験（DELE B1、B2等中級以上の資格を持っていただければ望ましい）			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： 執務用デスクの提供可。宿泊先は、要相談。			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		10USD/日	50USD/泊
■渡航にあたり必須となる予防接種 ペルー入国にあたり、義務づけられている予防接種はないが、黄熱、狂犬病、A型肝炎、B型肝炎、破傷風の予防接種を推奨。これらの予防接種はペルーでも可能だが、流通が不安定であることには留意。また、ペルーには黄熱汚染地域もあるため、イエローカード（黄熱予防接種証明書）を有する者は持参願います。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在先：（主）Lima・San Isidro地区。 渡航標準経路：米国（ヒューストン経由）乗り継ぎ			
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在11
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	タンザニア事務所		
■テーマ 「スポーツと開発」の可能性を探る～「レディース・ファースト」の実施支援と今後の展望を見据えて～			
■プロジェクト概要 「レディース・ファースト」は、ジェンダー平等、女性のエンパワメントとスポーツ振興を目的に、JICAと国家スポーツ評議会（NSCT）との共催で2017年からタンザニアで実施している女子陸上競技大会です。また、2023年9月からは、スポーツ大会の計画策定・実施支援、スポーツを通じた開発にかかる政策レベルでの能力強化を目的に、NSCTに対し「スポーツと開発」の個別専門家を派遣しています。 同大会は、競技そのものに加え、各種サイドイベントの実施が特徴です。2023年11月に実施した第5回大会（動員数約1,700人）では、「女性起業家のためのビジネス・コンペティション」、「HIV予防啓発キャンペーン」等を実施、参加した女子選手等に様々な機会提供を行いました。 2024年11月には第6回「レディース・ファースト」が予定されており、スポンサー企業との連携強化、他ドナーをはじめとする関係ステークホルダーとの連携促進が求められています。また、同大会参加者へのインタビュー分析等を踏まえ、今後の同大会の在り方、及び「スポーツと開発」のさらなる可能性の検討が求められます。			
■具体的なインターンシップ活動内容 1. 第6回「レディース・ファースト」実施支援補助 (1) 大会運営にかかる準備・実施支援（地域大会、本大会、タンザニア陸上連盟（Athletic Tanzania）との連携強化等を含む） (2) スポンサー企業及び関連ドナーへの広報及び連携促進強化 (3) サイドイベントの企画・立案・実施 (4) 大会参加者へのインタビュー調査等の実施 (5) その他関連する事務 2. 自身が設定する「スポーツと開発」関連テーマの調査・検証（ダルエスサラーム及びザンジバルを想定。他地域も応相談） (1) テーマの設定、活動計画の検討、活動実施 3. その他個別専門家関連活動補助 (1) 全国スポーツ参加状況調査関連とりまとめ活動補助等			
■参考情報 ・ イベントレポート・第5回タンザニア女子陸上競技大会「レディース・ファースト」 https://www.jica.go.jp/information/seminar/2023/1527296_36701.html ・ 第5回「レディース・ファースト」ビデオ https://www.youtube.com/watch?v=ue6tYxs1EFo https://www.youtube.com/watch?v=dGSw2piYh1k			
■参加(同行)可能な行事・視察等 2024年11月22日 - 24日 第6回「レディース・ファースト」またそれにかかる地方大会等（9-11月にかけて随時実施予定）			
■受入時期・期間 2024年9月から11月までの 2-3ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：上記期間のうち、11月が大会の実施のため、同月は滞在するように調整願います。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 「スポーツ科学」、「人間科学」、「開発経済/国際関係論」等の専攻を有していること。 望ましい 将来国際協力に従事することを志していること。			
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）： ※PCについては、JICA事務所内活動時のみ、貸出可能			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。 1,000円/日 6,000円/泊			
■渡航にあたり必須となる予防接種 厚生労働省のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html ）を参考に、推奨されるワクチンの接種を検討してください。タンザニアは黄熱病のイエローカード対象国にはなっていませんが、黄熱に感染するおそれのある国・地域の国籍を持つ渡航者は、現在の居住地にかかわらず、証明書の提示を求められる場合があります。この点については厚生労働省検疫所のウェブサイト（ https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/yellow_fever_certificate.html ）をご覧ください。			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 JICAウェブサイト（ https://www.jica.go.jp/about/organization/safety/rule.html ）をご参照のうえJICA安全管理部（JICA安全対策情報申請窓口）：jicast@jica.go.jpへメールを送付し、JICA国別安全対策情報を入手ください。また外務省の海外安全ページ（ https://www.anzen.mofa.go.jp/readme/readme.html ）をよく読み、必ずたびレジに登録ください。			
■備考・留意点 ・ 本ポストではJICAタンザニア事務所およびNSCT（JICA専門家配属先）でのインターン活動を想定しています。 ・ 滞在許可証取得にかかる必要書類は、派遣決定後、JICAタンザニア事務所の指示に従って速やかに提出してください。 ・ 深夜早朝の発着便（20時～6時）は極力避けてください。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在12
■地域 ドロップダウンリストから選択⇒	アフリカ地域	■募集人数（人）	2
■部署名/事務所名	カメルーン事務所		
■テーマ 「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」（農業）における事業運営補佐			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 国内で消費する米の多くを輸入に頼るカメルーンは、米の生産量を拡大し、自給率を高めることを国家戦略に掲げています。2011年から続くコメ振興プロジェクトでは、カメルーン国内の複数のサイト（中央州、南部州、東部州、北西州および西部州）において、陸稲と水稲双方の種子生産から販売・消費に至るバリューチェーンの強化を行うことにより、国産米の増産と品質向上を図り、灌漑水稲米の販売量と陸稲米の自家消費量の増加に取り組んで来ました。本インターンシップでは、第3フェーズとなる当該プロジェクトにおいて、日本人専門家及びカメルーン側実施機関である農業省並びにヌン渓谷開発公社と連携し、事業目標達成に向けた活動を支援することを目的としています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 PRODERIPは灌漑水稲から天水陸稲までを取扱っており、それぞれ種子生産から販売・自家消費を目的とした多彩な活動を行っています。そのため、日常は圃場での種子生産や試験活動、精米、粳や白米の品質検査、販売まで様々な活動を経験することが可能です。灌漑水稲分野の8～12月の具体的な活動は、1) 育種家種子および原原種子生産、2) 純化品種と未純化品種の収量差に関する試験の補助、3) 北西州Ndopで生産された粳の品質検査、4) 精米、5) 精米後の白米品質検査、6) スーパーマーケットCarrefourへの出荷やSPARとの販売交渉などです。天水水稲・陸稲分野では、1) Yaounde市内での育種家種子・原原種子生産、2) 南部州Ebolowa市および東部州Batouriでの原種および普通種子生産、3) 第2雨季に天水稲作栽培を実施している農家の栽培モニタリング、4) 天水水稲地域（西部州）の調査を実施する予定です。これらの日々の活動を専門家やカウンターパートとともに実施します。			
■参考情報 ・ JICAホームページ（各国における取組 カメルーン）： https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/index.html ・ JICAホームページ（カメルーン事務所）： https://www.jica.go.jp/overseas/cameroon/office/index.html ・ JICAホームページ（JICAカメルーン事業紹介動画）： https://www.jica.go.jp/Resource/cameroon/office/others/movie.html ・ JICAカメルーン事務所 Facebook： https://www.facebook.com/JICACameroonOffice ・ ODA見える化サイト： https://www.jica.go.jp/oda/project/1500396/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ・ ヤウンデでの圃場活動、水稲に関する普及員・中核農家向け栽培・収穫後処理研修への参加、補助 ・ 南部州および東部州に位置する種子生産圃場への出張（種子生産圃場準備、栽培管理） ・ 西部州での天水水稲に関する活動（調査およびモニタリング） ・ スーパーマーケット（Carrefour、SPARなど）への出荷、販売交渉			
■受入時期・期間 2024年8月から12月までの 1.5ヶ月から3か月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件 望ましい 農学部または生物生産系の学部・学科 必須 圃場で農作業できること			
■提供可能な執務環境等 □PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。 2000円/日 7000円/泊			
■渡航に当たり必須となる予防接種 必須：黄熱病 推奨：A型肝炎、B型肝炎、ポリオ、狂犬病、髄膜炎菌、麻しん・風しん、水痘、破傷風、腸チフスを推奨します。他にも厚労省検疫所FORTHのホームページを確認し、必ず医師と相談し必要な予防接種を行ってください。 https://www.forth.go.jp/moreinfo/topics/useful_vaccination.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在拠点は首都のヤウンデを想定しています。ヤウンデの治安は他のアフリカ諸国の首都と比べると良好ですが、軽犯罪が増加傾向にあります。またマラリアにも注意が必要です。渡航にかかる標準経路は、アジスアベバ（エチオピア）あるいはパリ（フランス）経由です。			
■備考・留意点 本インターンシップは2名を募集しており、2名の開始日を合わせるように調整させていただきます。また本インターンシップは技術協力プロジェクト「バリューチェーンの強化を通じたコメ振興プロジェクト（PRODERIP-RCV）」への張り付きとなります。プロジェクトオフィス及びサイトでの活動が主となり、活動期間中はプロジェクト専門家（邦人）との密な連携が必要となります。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在13
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ アフリカ地域	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ルワンダ事務所		
■テーマ JICARルワンダの広報/ブランディング戦略の策定・デザイン・実行、および事務所オペレーション効率化支援			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 JICARルワンダでは、水・衛生、農業、インフラ、教育・ICT等、様々な領域で支援を実施しています。その成果を適切に日本および現地・第三国へ伝え、JICAおよびルワンダへの興味関心を醸成し、将来的な国際協力業界の参加者を増加させてゆくため、JICARルワンダ事務所における広報/ブランディング戦略の策定・デザイン・実行を行います。各プロジェクトの現場にも赴き、専門家や現地コミュニティと直接対話をしストーリーを収集し、それを世界に向けて伝えることで、JICAの貢献を広く発信することが期待されます。また、および事務所オペレーション効率化支援としてJICARルワンダ事務所の内部運営にも関わり、業務効率化の支援からプロジェクトのサポート、イベントの計画と実施まで経験することで、将来的な国際開発や他の分野でリーダーシップを発揮する上で必要となる組織運営面の課題やダイナミクスの理解を深めるとともに、JICA関係者とのネットワークを深めることが期待されます。 *上記に係る経験に関わらず、熱意のある方のご応募を期待しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 活動内容案（応募者の経験やスキルに応じ相談可） 1. 広報/ブランディング - 広報/ブランディング戦略案（含：ターゲット層、メッセージ、メディアミックス等）の策定、年間計画案（各プロジェクトのイベントスケジュールを踏まえた、各メディアにおける記事や動画の投稿スケジュール等）の策定、赴任期間における実施支援 - 各プロジェクトの現場訪問、専門家や現地コミュニティと直接対話を通じたストーリーを収集、広報コンテンツ作成、ロゴデザイン等の実施支援 2. 事務所オペレーション効率化支援 - ルワンダ事務所現地スタッフと連携した事務所運営業務支援（JICA関係者のルワンダ訪問支援、その他業務支援） - 業務効率化に資する改善案の提案および管理職との協議、決定された施策の導入支援			
■参考情報 https://www.jica.go.jp/overseas/rwanda/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 派遣期間に実施される各プロジェクト（水・衛生、農業、インフラ、教育・ICT等）サイトへの出張の同行、イベントへの出席等			
■受入時期・期間 2024年8月から12月までの 2-3ヶ月間程度 上記期間外含めて調整可 理由：応募者の経験・スキルおよびスケジュールを鑑み調整可			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語でのコミュニケーション		
望ましい	広報やデザインに関する知識・業務（インターン含む）経験		
望ましい	バックオフィス業務に係る知識・業務（インターン含む）経験		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2000-3000円/日		5000-8000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 特に無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 ・ルワンダの治安情報： https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pchazardspecificinfo_2022T105.html#ad-image-0 ・渡航に係る標準経路：エチオピアもしくはカタール経由			
■備考・留意点 特に無し			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在14
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	ヨルダン事務所		
■テーマ 社会的脆弱層に配慮したインフラ開発			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 ヨルダン、政情が不安定な国が多い中東地域の中で安定を確保している数少ない国の一つである。その安定は地域全体の安にとって不可欠であることから、経済成長（インフラ、産業開発等）、貧困削減（難民支援も含む）、地域安定化を中心に有償資金協力で約3,000億円、技術協力で約400億円、無償資金協力で約500億円の協力をしてきた。ヨルダンは一定程度の経済開発を達成しているが、国内の脆弱層（難民、女性、障害者など）を包摂した社会全体での発展には未だに不十分な点が多い。例えば、周辺国からの難民の多くは難民キャンプではなく、ヨルダン人と同じエリアに滞在しているが、ヨルダン人と同じ公共サービスを受用することが出来ず、また就労や教育の機会において不利な立場に置かれている。また難民を多く受け入れることで、ヨルダン国民の社会サービスやインフラも逼迫している。本プログラムは、実施中・予定のインフラ案件において、文献調査、サイト視察、先方政府関係者やJICA関係者、他ドナーへのインタビューを行い、今後の案件において社会的脆弱層への開発効果をどのように確保・増大させるかについて提案することを目的とする。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・本プログラム中の目標設定（成果品となるものの特定）や活動計画（スケジュール作成、対象とするセクターや案件候補の選定、対象とする社会的脆弱層の特定などを含む）の作成（プログラム開始後の早い段階で計画を作成する。） ・サブテーマを絞り込む（例：「都市交通／都市開発におけるジェンダー視点」、「エネルギー開発における難民支援」、「経済開発分野（民間セクター開発）における難民支援」） ・ヨルダンにおける難民や社会的脆弱層のおかれた状況の整理。 ・実施済み、実施中の案件の事業サイトへの訪問、JICA関係者へのインタビュー。 ・他ドナーによる類似セクターやアプローチの文献調査、関係者へのインタビューを通じた情報を取りまとめた資料の作成。 ・JICAヨルダン事務所が運営するSNS等に投稿する広報材料の取りまとめ（写真、動画を含む） ・その他事務所活動の補佐			
■参考情報 https://www.facebook.com/jicajordan			
■参加（同行）可能な行事・視察等 ヨルダン国内における過去及び現在実施中の事業サイトへの視察を予定。			
■受入時期・期間 2024年10月から12月までの 1ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：上記期間内でヨルダン事務所から時期の調整をお願いする場合があります。また場合によっては1月以降の派遣の調整をお願いする場合があります。			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学院生・社会人とも可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	我が国のODA事業の概要に係る理解		
望ましい	中東地域の政治・経済・社会状況に係る理解		
■提供可能な執務環境等 <input type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話貸出（必須） <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
3,000円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 特になし。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 一般治安は一部の南部地域を除き良好。 ヨルダンへは中東（イスタンブール、ドーハ、ドバイ）経路が一般的。			
■備考・留意点 2023年10月7日のガザ紛争開始後、アンマン市内ではデモが頻発しています。これまで平和裏に終了していますが、滞在中はヨルダン事務所の安全対策措置に沿って行動していただきます。また今後地域情勢が悪化した場合には受け入れができない場合もありますので、予めご承知おきください。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム

《文系・理系問わない》

受入担当部署/受入事務所		登録番号	2401-在15
■地域	ドロップダウンリストから選択⇒ 中東・欧州	■募集人数（人）	1
■部署名/事務所名	エジプト事務所		
■テーマ エジプト事務所における総務活動・研修関連活動			
■テーマ（プロジェクトなど）の概要 エジプト事務所総務班では、事務所が管理している有償/無償資金協力、技術協力、ボランティア事業が円滑に進むよう、また所員とナショナルスタッフが働きやすい環境を整えるべく、ルール作りとそのフォロー、調達関連活動、予算管理、イベント企画を行っています。また本邦で実施される課題別研修、国別研修、長期研修の募集から派遣手続きも担当しています。			
■具体的なインターンシップ活動内容 ・ 要望調査サポート（8月） ・ 課題別研修・国別研修の募集から派遣までの手続きにかかるサポート（8月から12月頃） ・ ABEイニシアティブ（長期研修）にかかる募集選考、派遣前ブリーフィング等のサポート（9月から11月頃） ・ 公用車調達サポート（時期はご相談） ・ PC調達サポート（時期はご相談）			
■参考情報 （日本語） https://www.jica.go.jp/overseas/egypt/index.html （英語） https://www.jica.go.jp/Resource/egypt/english/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等 事務所が管理する直営または業務実施契約のプロジェクト現場への視察 ABEイニシアティブの派遣前に実施されるABE生の同窓会への参加（9月頃）			
■受入時期・期間 2024年8月から11月までの 1ヶ月間程度 上記期間内での調整可 理由：			
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語の読み書き能力		
望ましい	事務所内外の関係者とのやり取りに欠かせないコミュニケーション能力		
■提供可能な執務環境等 <input checked="" type="checkbox"/> PC貸出 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急連絡用携帯電話貸与（ <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等 その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		約15,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種 接種しておくべきワクチン：A型肝炎、B型肝炎、破傷風 できれば接種しておくワクチン：腸チフス、狂犬病 https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/africa/egypt.html			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路 滞在所：事務所近辺のホテル 治安状況：外務省の海外安全情報ではカイロ大都市圏はレベル1 標準経路：日本⇒ドーハ⇒カイロ			
■備考・留意点			

2024年度第一回 JICAインターンシップ・プログラム 開発コンサルティング企業ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2401-開コ 01	(株)アルメック	最大2名	フィリピン国公共交通指向型開発(TOD)能力強化プロジェクト
2401-開コ 02	(株)三祐コンサルタンツ	1	マリ国地方行政能力強化アドバイザー業務(技術協力個別案件)
2401-開コ 03	(株)三祐コンサルタンツ	1	ケニア国小規模農民組織強化・アグリビジネス振興プロジェクト(第Ⅲ期)
2401-開コ 04	(株)三祐コンサルタンツ	1	アフリカ地域IFNAにおけるIGSA展開促進のための情報収集・確認調査(QCBS)
2401-開コ 05	(株)パデコ	1	エジプト国特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト
2401-開コ 06	(株)パデコ	1	ラオス国初等教育における算数指導力強化プロジェクト(QCBS)
2401-開コ 07	八千代エンジニアリング(株)	1	ウガンダ国首都圏送変電網改修事業(円借款)
2401-開コ 08	八千代エンジニアリング(株)	1	ネパール国ビラトナガル水道改善計画
2401-開コ 09	八千代エンジニアリング(株)	1	インドネシア国ジャカルタ首都圏総合洪水対策事業準備調査

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2401-開コ01
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ドロップダウンリストより選択⇒(株)アルメック	あ行	募集人数（人）	最大2名
■国名／プロジェクト名 フィリピン国公共交通指向型開発(TOD)能力強化プロジェクト		■スキーム名 技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要 マニラ首都圏では、急激な人口増加・過密化に伴う交通渋滞や大気汚染への対応として、我が国の支援のもと複数の都市鉄道の整備が進められています。フィリピン政府は、公共交通指向型開発（TOD）を通じて、鉄道利用の喚起と駅周辺の利便性向上を通じた都市環境改善を進めていますが、その規範となるガイドラインやコンセプトプランが整備されていない状況にあります。またTOD推進に必要な関係機関の役割分担や利害調整方法が明確でないことも課題です。 本事業は、マニラ首都圏において、フィリピン基地転換開発公社（BCDA）の地下鉄沿線保有用地の開発を促進するため、TODのモデルケースとTODガイドライン等を策定します。これにより、BCDA及び関係機関のTOD計画・実施能力の向上を図り、もって公共交通を軸とした都市開発や地域拠点開発の促進を目指します。			
■具体的なインターンシップ活動内容 TODに関連する情報収集・整理、TODガイドライン作成支援、会議への参加、現地視察の他、インターン生の興味に合わせて研究テーマを設定してもらい、インターン中に研究から発表までを実施。			
■プロジェクトの参考情報 https://www.jica.go.jp/oda/project/202004765/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等 現地視察、会議			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 1ヶ月間		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：日本人専門家の現地滞在期に合わせる必要有	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ） 特になし			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ） 滞在予定場所：マカティ市弊社オフィス周辺 治安状況：外務省HP参照 (https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_013.html) 渡航経路：直行便あり			
■備考・留意点 特になし			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2401-開コ02
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	さ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)三祐コンサルタンツ			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
マリ国地方行政能力強化アドバイザー業務（技術協力個別案件）		その他	
■プロジェクト概要			
マリは2012年3月の一部国軍兵士の反乱に端を発した内政混乱及びイスラム武装勢力の北部伸張により治安情勢が悪化、2015年6月「アルジェ包括的和平協議にかかる和平・和解合意」が署名され、翌2016年には暫定行政機構設置法が可決された。しかしながら、2020年、2021年にはバマコを中心とした政治危機が生じるなど、不安定な情勢は継続している。同国の危機の背景には地域間格差があるとされ、平和の定着のためには、公平な開発を促進すること、また行政と住民の信頼構築、回復が求められる。同国ではすでに政策や枠組みでは地方分権が推進されているものの、実態が伴っているとは言い難く、かかる状況を踏まえ、マリ政府から本専門家の要請がなされた。本専門家派遣を通じて、地方行政官の能力向上が強化され、地方政府と住民の協働及び信頼醸成を促進することを目的としている。また、本事業は採択済の国別研修「持続的発展のための地方行政強化」と並行して実施し、補完・連携しながら進めていく想定である。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
2024年8月後半に、東京及び北海道で実施される国別研修の準備、実施支援、及び精算支援を行う。 マリ国研修員の日本での生活や研修に必要な通訳を、研修管理員を補完する形で行う。 研修記録として写真、ビデオの撮影を行い、研修員と共有する。			
■プロジェクトの参考情報			
https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/ce55e4cc-e62b-48e4-aea1-34600cbff272/f4b4f82c/20231025_councils_shingikai_iken_senmon_tawAAx88_06.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
2024年度マリ国別研修「持続的発展のための地方行政強化」			
■受入時期・期間			
2024年8月から9月までの 1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
調整不可	理由：国別研修の期間が8月後半の約2週間で確定しているため。	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	フランス語での日常会話能力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：		弊社海外事業本部（東京）で勤務時の事務スペース	
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
12,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
■滞在场所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
■備考・留意点			
期間内において、勤務地が以下の通り、順次変更となります。 事前準備：東京都豊島区大塚 弊社オフィス 国別研修実施中：東京、北海道（札幌市、滝川市、浦幌町、帯広市） 事後処理（精算支援）：東京都豊島区大塚 弊社オフィス			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2401-開コ03
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	さ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ (株)三祐コンサルタンツ			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
ケニア国小規模農民組織強化・アグリビジネス振興プロジェクト（第Ⅲ期）		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
本プロジェクトは農業畜産開発省（MOALD）を窓口機関とし、農家及び中小零細のアグリビジネス企業の農作物バリューチェーン（VC）上の課題を特定し、支援策の優先度付けを行うこと及び支援策の実施・検証により、地方部のアグリビジネス支援の能力向上を目指すもの。第Ⅲ期はパイロット事業フェーズであり、アグリビジネス支援策の試行および支援体制の構築を行っている。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは、5つのカウンティ（ナクル、ブシア、ホマベイ、タラカニシ、キリフィー）で実施しているパイロット事業の実施支援並びにモニタリング業務に携わっていただきます。国内業務と在外業務（渡航による現地業務）の両方を経験できる貴重な機会です。アフリカのアグリビジネス振興に関心のある方にとって、5つの農作物VC（アボカド、コメ、ラッカセイ、マカダミアナッツ、カシューナッツ）におけるプロジェクトに同時に関われる魅力的なインターンシップです。 【国内活動（1ヶ月～2ヶ月程度）】 <ul style="list-style-type: none">● 定例オンライン会議への参加・議事録作成● 月次レポートの作成● 会計管理・労務管理● 各種調査の結果の取りまとめ・分析 【現地活動（3週間～4週間程度）】 <ul style="list-style-type: none">● プロジェクトサイトの視察・プロジェクト関係者との打合せ● プロジェクトサイトでの活動支援、モニタリング・評価の実施支援● 各種情報収集・調査の実施支援			
■プロジェクトの参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの2.0～3.0ヶ月程度 ケニア：3～4週間程度、日本：ケニア在外業務の前後に1.0～2.0ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：在外業務時期はコンサルタントに同行のため、希望に添えかねます。国内業務時期は調整可能です。	可	週4回、1.0～2.0ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	英語でのコミュニケーションが取れること。		
■提供可能な執務環境等			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,500円/日		13,000円/泊（ナイロビ） 7,000円/泊（地方）	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
黄熱病			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
移動はプロジェクト車両／飛行機となります（徒歩は禁止）。			
■備考・留意点			
途上国における農業・農村開発（特にアグリビジネス振興や農作物VC開発）に関心・素養のある人材を希望します。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2301-開コ04
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ さ行		募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ ㈱三祐コンサルティング			
■国名／プロジェクト名		■スキーム名	
アフリカ地域IFNAにおけるICSA展開促進のための情報収集・確認調査（QCBS）		その他	
■プロジェクト概要			
本調査では、アフリカ地域を対象にIFNA最終年である2025年までの「IFNA横浜宣言2019」の実現及び2026年以降のICSA推進に関する提言取りまとめに向けて、以下を行う。 (1)各国IFNAフォーカルから提案されるパイロット事業（ICSA展開型）及び、JICAが実施する研修（課題別研修及び地域研修）に参加した研修員のアクションプランの実施支援（研修員フォローアップ（FU）型）を行い、成果、課題を明らかにし、ICSA推進及び栄養改善活動の他国展開に向けた教訓抽出及び提言を取りまとめる。 (2)別途実施予定の「NFA（Nutrient Focused Approach）アプリ活用促進調査」と連携の上、パイロット事業（研修員FU型）関係者等の協力を得て同試作版の現場試行を行い、課題等のフィードバックを取りまとめる。 (3)2026年以降のICSA推進に向けて、IFNA立上げ時（2016年度）以降のIFNA関連JICA事業レビューを行い、成果、課題、教訓及び提言を取りまとめる。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは、アフリカ5か国（モザンビーク、カメルーン、チャド、ザンビア、マラウイ）で実施している農業からの栄養改善に関するパイロット事業のモニタリング業務に携わっていただきます。国内業務と在外業務（渡航による現地業務）の両方を経験できる貴重な機会です。農業からの栄養改善に関心のある方にとって、様々な国でのプロジェクトに同時に関わられる魅力的なインターンシップです。			
【国内業務（1ヶ月～1.5ヶ月）】			
●国ごとの定例オンライン会議の参加・議事録作成 ●月次レポートの作成・提出 ●会計管理・労務管理 ●ベースライン調査の結果の取りまとめ・分析			
【現地業務（ザンビア（北部州）2週間弱を想定）】			
●カウンターパートとのプロジェクトサイト視察・打ち合わせ ●プロジェクトサイトでのモニタリング・評価 ●写真撮影・編集 ●NFAアプリの試行			
■プロジェクトの参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間（併せて、調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2024年10月から12月までの 1.5～2ヶ月程度 ザンビア渡航：11月頃		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：在外業務時期はコンサルタントに同行のため、希望に添えません。国内業務時期は調整可能です。	可	週4回、1.5～2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
必須	英語でのコミュニケーションが取れること。		
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,500円/日		首都：13,000円/泊 地方：7,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/africa/zambia.html （ザンビア）			
■滞り場所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspathazardinfo_104.html#ad-image-0 （ザンビア）			
■備考・留意点			
農業を通じた栄養改善をテーマとした案件であり、農業又は栄養に素養のある人材を要望します。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《文系・理系問わない》

受入先企業		登録番号	2401-開コ05
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ は行 ドロップダウンリストより選択⇒ (株)パデコ		募集人数（人）	1
■国名／プロジェクト名 エジプト国特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト		■スキーム名 技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要 エジプトでは、人口増による若者の労働市場参入を背景とした失業率の高さや都市と地方の格差は深刻な状況で、政府は様々な改革に取り組んでいます。特に教育分野では、知識偏重や理論中心の学びから、問題解決能力や協調性、自己管理能力などのライフスキルの獲得を目的とした学びに転換するため、2018年から大規模な教育改革を進めています。その中で、日本の教育の要素である特別活動や、学校運営・学級経営方法、遊びを通じた学びなどの活動を取り入れ、全人的教育を推進しています。本事業は、先行事業で開発した全人的教育モデルを普及し、持続的に実施していくための体制強化及び仕組みづくりを支援するものです。			
■具体的なインターンシップ活動内容 前述の技術協力プロジェクトでは、2024年11月ごろに効果測定の間接調査を行う予定にしています。そこで行う保護者・校長副校長・教員・児童へのアンケート調査や、学級会を動画録画しての質的評価に加え、もし可能なら、次の追加的な活動も行ってもらうことを想定しています。 (追加案1) 文部科学省EDU-Port調査研究事業が2023年12月に行った、学級会の参与観察時に利用した、学級会時の教師と児童の発言のつながり率やスルー回避率等の分析を、他の教科学習でも適用してみる。 (追加案2) エジプト国内の通常の仕組みで行われる算数など教科学習の学期末テスト等のデータ収集の支援			
■プロジェクトの参考情報 JICAプロジェクトニュースレター https://www.jica.go.jp/oda/project/1904486/news/index.html EDU-PortプロジェクトHP https://tokkatsu-eduport.education.tsukuba.ac.jp/			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2024年11月から12月までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：中間調査やEDU-Port調査期間に重なるため	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	ご自身も小学校等で授業を行った、授業者を指導した、あるいは授業を対象に研究した経験を持ち、授業観察ができること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input checked="" type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
2000円/日		4000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ） 狂犬病の接種が望ましい（エジプトで犬に噛まれるケースが時々発生する）			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ） JICAエジプト事務所 https://maps.app.goo.gl/THD72QSPAEEsoFfFHA 教育技術教育省プロジェクト管理運営部（PMU） https://maps.app.goo.gl/mRt1roTCFTtMv1686			
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	2401-開コ06
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ は行 ドロップダウンリストより選択⇒ (株)パデコ		募集人数（人）	1
■国名／プロジェクト名 ラオス国初等教育における算数指導力強化プロジェクト（QCBS）		■スキーム名 技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要 JICAは先行案件「初等教育における算数学習改善プロジェクト」（2016-2023）において、初等算数のカリキュラム改訂及び教科書・指導書の開発を通じて、問題解決型学習に重点を置いた新カリキュラムの導入を支援した。今後、新たな教科書・指導書を活用した授業実践を普及し、より多くの児童の学習改善に繋げていくためにはCPD を通じた現職教員の能力強化に引き続き取り組む必要があり、それを担うTTC の更なる能力強化が不可欠となる。本事業は、ラオスの基礎教育の改善を目指した貴機構によるこれまでの技術支援の実績を踏まえ、MOES が優先課題として掲げる初等現職教員の職能開発を主軸として、新初等算数カリキュラムに沿った授業力の向上に重点を置いた効果的なCPD 制度の実施を支援するものである。			
■具体的なインターンシップ活動内容 研修等の活動支援、学校モニタリング、予算管理、広報			
■プロジェクトの参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等 学校モニタリング			
■受入時期・期間		フルタイム以外の活動体系の可否	
2024年8月から12月までの間の1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：8月上旬に研修予定、9月以降は学校モニタリング	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人） 大学院生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	探求心、提案力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可
<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等			
その他（提供可能な事項）： リモート不可、PC貸与なし、必要資料は提供可。			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3000円/日		5000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ） 必須の予防接種はなし。 推奨される予防接種：破傷風、A型肝炎、B型肝炎、狂犬病、麻しん（麻しんワクチンを今まで一度も受けたことがなく麻疹に未罹患の人）、日本脳炎、腸チフス			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ） ラオスビエンチャン首都 https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_020.html#ad-image-0 渡航経路 ベトナム航空：成田ーホーチミンービエンチャンーハノイー成田 タイ航空：成田ーバンコクービエンチャンー成田（羽田）			
■備考・留意点			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	2401-開コ07
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒	ま行_わ行	募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ 八千代エンジニアリング(株)			
■国名/プロジェクト名		■スキーム名	
ウガンダ国首都圏送変電網改修事業（円借款）		有償資金協力	
■プロジェクト概要			
The Greater Kampala Metropolitan Area (GKMA) と呼称されるウガンダ国・カンパラ地域の①送配電網の強化②客先であるUETCL (Uganda Electricity Transmission Company Limited) ウガンダ電力公社への技術移転 コンポーネント： 変電所建設（220kV級）、送電線建設、移動式変電所（132kV級）の調達			
■具体的なインターンシップ活動内容			
円借款事業の施工監理活動全般（デザインビルト方式） プロジェクトオフィスでの執行活動、図書・図面理解、客先またはコントラクターとの打合せ、施工監理立会など。			
■プロジェクトの参考情報			
・ ODA見える化サイト https://www.jica.go.jp/oda/project/UD-P6/index.html ・ ウガンダ国カンパラ首都圏送変電網改修事業準備調査ファイナル・レポート https://libopac.jica.go.jp/images/report/P1000028026.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
変電所建設サイト及び送電線ルート視察			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月までの 最大1ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	応相談
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	電気、機械分野に関連する学位および資格を有していること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可 <input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：		プロジェクト概要資料、進捗報告書等	
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
5,000円/日		10,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
黄熱病			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
渡航経路は、ドバイ、ドーハ、アディスアベバ経由。 現地治安状況は、滞在ホテルから外出する際は車での移動が原則。			
■備考・留意点			
首都カンパラ市内のホテルに滞在し、車で10分程度のプロジェクトオフィスに通勤 建設サイトはプロジェクトオフィスから車で1~2時間程度。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	2401-開コ08
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ま行_わ行		募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ 八千代エンジニアリング(株)			
■国名/プロジェクト名		■スキーム名	
ネパール国ピラトナガル水道改善計画		無償資金協力	
■プロジェクト概要			
ネパールの南東部に位置する第1州の州都であるピラトナガル市は、人口増加や経済成長等に伴い水需要が増加している。また、不衛生な水環境等が原因で伝染病が一時流行し、上水道の衛生改善も注視されている。これを受け、本無償資金協力事業では、第1州ピラトナガル市において、上水道施設の更新及び拡張を行うことにより、水質の改善及び安定した給水の実現を図り、市民の生活環境の改善に寄与する。なお、ピラトナガル市の主な水源は深井戸であるが、深井戸の原水には鉄、マンガン、大腸菌等が含まれていることが分かった。そのため、鉄マンガン除去施設や塩素消毒施設等を導入し、既存ポンプ場の改修（3箇所、合計能力11,577m ³ /日）及び新設（1箇所、能力4,075m ³ /日）を行う。また、送配水管の更新・拡張のため、管きょ敷設工事（約60km）も行う。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
コンサルタントが行う施工監理を現場で体験してもらう。具体的には、以下を想定するが、工事進捗に応じ臨機応変に対応する。 <全般> ・ 工事内容の把握 ・ 無償資金協力事業のプロセス全般の把握 <主な活動> ・ 現場監理/安全監理 ・ 施主/関係機関協議 ・ 施工承認作業			
■プロジェクトの参考情報			
https://www.jica.go.jp/Resource/press/2021/20220310_30.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
施工現場視察、実施機関・関係機関との協議、事務所作業（経理・設計・積算）			
■受入時期・期間			
2024年8月から12月まで 最大1ヵ月		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	土木設計・モノづくりに興味がある方		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input type="checkbox"/> PC貸出可 <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
2000円/日		5000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
無し。A型肝炎予防接種を推薦。			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
市内で安全、衛星面で優れたホテルを紹介可能です。カトマンズからは空路でピラトナガル空港まで要渡航で、空港からホテルはコンサルタントがレンタカーで送迎します。コンサルタント事務所で執務を実施し、ホテルー事務所間移動は、コンサルタントが使用するレンタカーで送迎予定です。			
■備考・留意点			
対象地区は、カトマンズから空路で2時間程度の場所で、地方都市です。通常カトマンズへ国際線で入国し、翌日以降の便でピラトナガル空港への移動になりますので、カトマンズでの滞在が必要になります。移動費、滞在費のコンサルタントからの支給はないですが、ピラトナガル市内での移動手段と安全ヘルメットの提供はいたします。			

2024年度第一回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方におすすめ》

受入先企業		登録番号	2401-開コ09
■企業名：ドロップダウンリストより選択⇒ ま行_わ行		募集人数（人）	1
ドロップダウンリストより選択⇒ 八千代エンジニアリング(株)			
■国名/プロジェクト名		■スキーム名	
インドネシア国ジャカルタ首都圏総合洪水対策事業準備調査		協力準備調査	
■プロジェクト概要			
インドネシア最大の都市圏であるジャカルタ首都圏では、5年に1度程度の頻度で大規模洪水が発生しており、直近では2019年12月31日から翌年1月1日にかけて、ジャカルタ首都圏で内水氾濫を含む大規模な洪水が発生した。これを受け、対象地域の洪水被害の軽減を図り、もってジャカルタ首都圏における経済・産業の持続的な発展に寄与することを目的とする総合洪水対策事業が提案された。本インターンシップは、この総合洪水対策事業にかかる目的、概要、事業費、事業実施体制、運営・維持管理体制、環境および社会面の配慮等、我が国有償資金協力事業として事業を実施するための審査に必要な調査を行うことを目的としている。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
・対象地域における水文・地形データの整理 ・水文・水理・氾濫解析補助 ・地下放水路を含む洪水対策案の概略設計補助 ・対外関係機関説明資料作成補助 ・C/P機関会議への参加及び議事録作成 ・その他、弊社がインドネシア国防災分野で実施中の案件における各種補助活動等（備考欄参照）			
■プロジェクトの参考情報			
外務省 円借款案件概要書： https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100360342.pdf			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
プロジェクトチームによるチーム会議、実施機関との会議、再委託先との協議			
■受入時期・期間			
2024年 8月から10月までの1ヵ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	不可	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	河川、防災分野に関連する学位および資格を有していること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 完全対面形式	<input type="checkbox"/> 一部リモート可	<input type="checkbox"/> フルリモート可	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出可 <input type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
3,000円/日		8,000円/泊	
■渡航にあたり必須となる予防接種（在外オフィスのみ）			
特に無し			
■滞在所の情報および治安状況、渡航にかかる標準経路（在外オフィスのみ）			
渡航経路は、ジャカルタ直行便想定。 現地では単独行動を控え、安全に留意して活動すること。			
■備考・留意点			
標題案件他、弊社がインドネシア国防災分野で実施中の下記案件での活動も一部含まれる可能性がある。 ・インドネシア国洪水制御セクター・ローン ・インドネシア国スメル山緊急火山砂防事業計画プロジェクト ・インドネシア国防災事前投資に向けた洪水対策マスタープランプロジェクト			